

# 年報

—令和4年度—

2023

大磯町郷土資料館

OISO MUNICIPAL MUSEUM

## はじめに

令和4年度大磯町郷土資料館年報を刊行いたします。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、ほぼ影響を受ける前と同じ活動ができた一年となりました。臨時休館がなかったのも実に4年振りとなり、近年の活動がいかに制限を受けてきたのか、改めて実感します。

企画展は「めぐってみよう！大磯宿」「島崎藤村と大磯を愛した文人たち」「レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿～自然科学を記録する～」の全3回を実施し、いずれも御好評いただきました。島崎藤村をテーマとする企画展は開館以来34年振りの開催となり、その間に新たに収集した資料を公開することができました。郷土資料館の約30年間を通して実施してきた資料の収集活動が実を結び、確実にコレクションを充実させることができています。

旧吉田茂邸も再建後の公開から5年を迎えました。開館5周年記念事業として、ダイヤモンド富士見学会を実施し、関連グッズを新たに作成して、旧吉田茂邸の活用の幅を広げるべく、その可能性を探りました。

新型コロナウイルス感染症も令和5年5月8日に感染症法の位置づけが5類に指定され、ようやく社会が落ち着きを取り戻しつつあります。今後とも郷土資料館・旧吉田茂邸は、地域の資料や文化にかかわる出来事を調査し、広く発信し続けて参りますので、引き続き、当館の活動に御理解・御協力をお願いいたします。

大磯町郷土資料館

## 目 次

### 〔事業報告〕

大磯町郷土資料館運営	4
・組織および職員	4
・協議会	4
・予算	4
・観覧者数	5
大磯町郷土資料館施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	6
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理	6
・維持管理	6
・施設使用	6
大磯町郷土資料館学芸活動	7
・企画展	7
・学級・講座	11
・明治150年記念冊子作成委託	12
・博物館実習	12
・博物館資料の整備	13
・刊行物	14
・視察・見学対応	14
・取材対応	14
・レファレンス対応	15
・ホームページを活用した情報発信	16
・博物館資料の収集、整備、利用	16
・文献資料収集状況	18
旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動	20
・ミニ企画展	20
・講演会	21
・博物館資料の整備	22
・調度品等の整備	22
・刊行物	22
・視察・見学対応	23
・取材対応	23
・レファレンス対応	23
開館5周年記念事業	23
学芸員の調査、研究、普及活動	24

### 〔研究報告〕

東海道大磯宿助郷人馬の勤め方—相模国淘綾郡生沢村・寺坂村の事例から— 富田 三紗子	35(14)
--	--------

「藤澤山宇賀神縁起」について  
伊藤 匠 ..... 41(8)

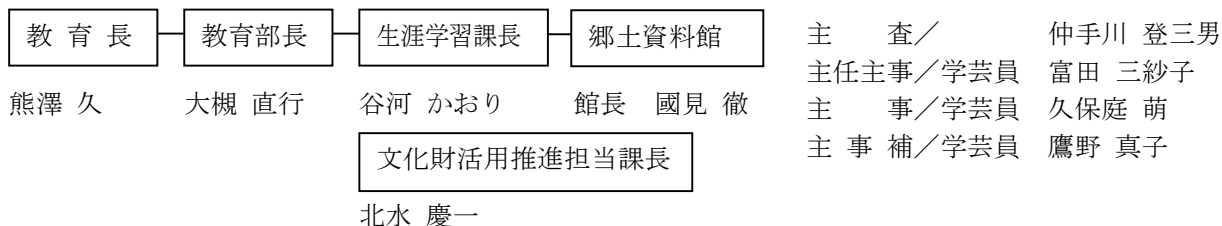
【資料紹介】鍋島伊都子『大磯日記』(明治三十年)  
小田部 雄次 ..... 48(1)

# 事業報告

---

# 大磯町郷土資料館運営

## ■ 組織および職員



会計年度任用職員／学芸員 飯野 友紀、中原 園子、伊藤 匠 (-R5/3/31)、村田 聡美  
 会計年度任用職員／司 書 今井 沙穂里  
 会計年度任用職員／自然観察指導員 高山 優美  
 会計年度任用職員 川下 多恵子、佐藤 瑞香、西田 裕子、花輪 弘枝、若栗 尊子、鈴木 道子、山本 陽子 (-R5/3/31)、石井道朗

## ■ 協議会

### <委員の構成>

- ・委員 長／近藤 英夫 (学識経験者)
- ・副委員長／西川 武臣 (学識経験者)
- ・委 員／柴田 紳一 (学識経験者)、古川 元也 (学識経験者)、佐伯 元治 (学校教育関係者)、中島 美江 (社会教育関係者)、大倉 祥子 (観光関係者)、曾根田 玲子 (観光関係者)、上野 広子 (社会教育関係者)

### <協議会の開催>

- ・第 1 回／令和 4 年 8 月 31 日 議題 1 令和 3 年度事業報告について  
議題 2 令和 4 年度事業について
- ・第 2 回／令和 4 年 12 月 7 日 議題 1 令和 4 年度事業進捗状況について
- ・第 3 回／令和 5 年 3 月 8 日 議題 1 令和 4 年度事業報告について  
議題 2 令和 5 年度事業について  
議題 3 郷土資料館運営基本方針について

## ■ 予算

### <当初予算の推移>

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
金額	84,551 千円	98,941 千円	92,462 千円	88,987 千円	133,457 千円	119,677 千円

### <令和 4 年度歳入決算額 (一部のみ) >

- ・旧吉田茂邸観覧料 10,668,370 円
- ・旧吉田茂邸刊行物売上代 110,690 円
- ・「わたしたちの大磯の歴史」売上代 132,000 円
- ・吉田茂関連製品売上代 263,800 円
- ・郷土資料館刊行物売上代 277,570 円

### <令和 4 年度歳出決算額>

事業	郷土資料館 運営事務事業	郷土資料館 維持管理事業	郷土資料館 学芸活動事業	教育普及・ 企画展事業	郷土資料館 施設整備事業
金額	1,627,692 円	13,456,239 円	6,607,885 円	18,566,239 円	25,872,000 円
事業	旧吉田茂邸 運営事務事業	旧吉田茂邸 維持管理事業	旧吉田茂邸 学芸活動事業	旧吉田茂邸 利活用推進事業	計
金額	10,983,838 円	8,393,534 円	360,476 円	283,923 円	86,151,826 円

□職員給与 (5 人分) 34,085,702 円 ■歳出合計 120,237,528 円

## ■ 観覧者数

<郷土資料館観覧者数の推移> 単位：人、日

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	累計(昭和63年～)
入館者数	28,900	22,201	11,053	24,091	24,719	1,042,032
1日平均/開館日数	97/299	82/271	64/173	94/257	83/297	109/9,599

※令和元年度は令和元年10月12日、13日を台風19号のため、令和2年3月7日から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前年度に続き令和2年6月15日まで、令和3年1月9日から3月21日まで臨時休館

※令和3年度は令和3年7月3日を大雨のため、7月6日から11日までは館内燻蒸のため、8月24日から9月30日までは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館

<郷土資料館の月別観覧者数> 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
入館者数	1,817	3,118	1,806	1,162	1,217	1,278	
1日平均	73	120	72	45	49	51	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	2,489	4,095	1,937	1,720	2,317	1,763	24,719
1日平均	100	164	84	75	101	68	83

<旧吉田茂邸(郷土資料館別館)の月別観覧者数> 単位：人

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
観覧者数	大人(個人)	1,402	2,651	1,319	917	926	1,149	
	大人(団体)	63	127	194	30	47	152	
	中学生・高校生(個人)	17	40	13	27	32	14	
	中学生・高校生(団体)	0	0	0	0	0	0	
	小学生以下	39	70	27	30	72	34	
	障がい者/介護者	78	153	62	40	26	55	
	減免対象者	107	72	171	11	55	45	
計		1,706	3,113	1,786	1,055	1,158	1,449	
1日平均		68	120	71	41	46	58	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
観覧者数	大人(個人)	1,584	3,301	1,274	1,135	1,963	1,571	19,192
	大人(団体)	220	648	111	26	44	100	1,762
	中学生・高校生(個人)	80	19	11	20	15	45	333
	中学生・高校生(団体)	0	0	0	0	0	0	0
	小学生以下	32	66	37	36	39	44	526
	障がい者/介護者	73	204	66	58	88	63	966
	減免対象者	113	21	34	1	40	32	702
計		2,102	4,259	1,533	1,276	2,189	1,855	23,481
1日平均		84	170	67	55	95	71	79

## 大磯町郷土資料館施設管理

### ■ 維持管理

#### <委託業務>

- ・清掃委託／（株）湘南県央サービス
- ・警備委託／（株）全日警 横浜支社
- ・昇降機保守委託／ダイコー（株）横浜営業所
- ・敷地管理委託／（財）神奈川県公園協会
- ・中央監視装置保守点検委託／日本電技（株）横浜支店
- ・空調設備第二期改修工事管理委託／（資）アーバンクルー
- ・空調機器給水設備保守委託／（株）郵生
- ・自家用電気工作物保守委託／荻野電気管理事務所
- ・消防用設備保守委託／（株）足柄防災
- ・自動ドア保守委託／（株）神奈川ナブコ 厚木支店
- ・燻蒸業務委託／関東港業（株）横浜営業所

#### <修繕>

- ・トイレ詰り修繕／（有）岩田土木管工
- ・給湯室水栓取替工事／（有）岩田土木管工
- ・誘導灯交換工事／（株）足柄防災
- ・室外機置場屋根修繕／（株）大創建設
- ・園内灯修繕／（株）興電社

#### <工事>

- ・空調設備第二期改修工事／神奈川山菱設備（株）
- ・トイレ自動水洗化等改修工事／（有）丸徳住設

### ■ 施設使用

#### <施設使用月別件数> 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	5	8	5	7	8	4	5	6	0	1	6	3	58

## 旧吉田茂邸（郷土資料館別館）施設管理

### ■ 維持管理

#### <委託業務>

- ・清掃委託／ 高橋産業（株）
- ・昇降機保守委託／（株）日立ビルシステム 横浜支社
- ・消防用設備保守委託／モリタ宮田工業（株）
- ・木製建具調整・木部全体点検委託／松井建設（株）
- ・警備委託／（株）全日警 横浜支社
- ・空調設備保守点検委託／（株）郵生
- ・敷地管理委託／（財）神奈川県公園協会

#### <修繕>

- ・トイレ自動水洗化改修／（有）丸徳住設
- ・天井他しみ抜き工事／松井建設（株）
- ・昇降機かご内液晶パネル交換／（株）日立ビルシステム

### ■ 施設使用

#### <施設使用月別件数> 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修室	4	0	0	4	1	0	0	1	2	0	0	0	12
全館	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3



# 大磯町郷土資料館学芸活動

## ■ 企画展

### 春季企画展「めぐってみよう！大磯宿」

期 間／令和4年4月23日（土）～6月12日（日）

開場日数／43日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約60点

料 金／無料

観覧者数／4,718人



趣 旨／江戸時代の東海道大磯宿の名所を、道中記や街道絵図などを調査することによって考察し、その見どころを紹介する。併せて、大磯宿の様子を伝える郷土資料館所蔵の大磯宿小島本陣資料を紹介し、宿帳に書かれた本陣に休泊した大名などの動向から、大磯宿の名所が当時の幅広い身分層に親しまれていたことを明らかにする。展示を見学した観覧者が、江戸時代の大磯宿を身近に感じる展示とする。

内 容／郷土資料館が所蔵する大磯宿小島本陣資料や、大磯宿を題材とした浮世絵を紹介し、「名所」という切り口から大磯宿を考察した。

#### (1) 東海道大磯宿を見る

壁面1及び展示ケースBにて「東海道分間延絵図」（東京国立博物館所蔵）の複製などの江戸時代当時の絵図を写真パネルで展示し、大磯宿の名所を解説した。

#### (2) 大磯宿小島本陣資料

展示ケースAにて大磯宿小島本陣資料（当館蔵）を展示した。本陣を務めた小島家の概要や、小島家と大名家とのつながり、休泊帳に記された通行の様子などを解説した。

#### (3) 浮世絵に見る大磯宿

壁面2に郷土資料館が所蔵する大磯宿を題材とした浮世絵を展示し、当時の名所がどのように捉えられていたのか、視覚的に伝えた。

#### (4) 大磯宿の本陣

昇降台に、常設展示リニューアル前に展示していた小島本陣の模型や、大磯宿小島本陣資料に含まれる小島本陣の平面図などを展示し、大磯宿の本陣の形式を紹介した。また、近年、資料の所在が判明した大磯宿石井本陣の間取図（松江市所蔵）も写真パネルで紹介し、小島本陣以外の大磯宿の本陣についても考察した。

### 〔関連行事〕

#### 大磯宿の町歩き

日 時／令和4年5月8日（日）10時00分～11時30分

場 所／大磯町内

参加人数／7人

内 容／大磯宿の江戸見附跡から上方見附跡までを歩き、途中にある名所（延台寺・本陣跡・地福寺・鳴立沢など）を担当学芸員が紹介した。

（担 当）富田



#### 秋季企画展「島崎藤村と大磯を愛した文人たち」

期 間／令和4年10月22日（土）～12月11日（日）

開場日数／42日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約100点

料 金／無料

観覧者数／6,219人

趣 旨／島崎藤村生誕150年を迎えるにあたって、郷土資料館が所蔵する島崎藤村関係の資料を展示し、島崎藤村と大磯町に居住した文人たちの交流を紹介する。島崎藤村をテーマとする企画展は、昭和63年に郷土資料館が開館した際に実施した特別展以来、34年ぶりとなる。

その間に収集、整理した資料を公開し、郷土資料館が所蔵する貴重な資料を広く活用することも目的とする。

内 容／郷土資料館が所蔵する島崎藤村関係資料や寄託資料の菊池重三郎関係資料を中心に、島崎藤村の大磯での暮らしや、他の文人たちの交流を紹介する。

(1) 島崎藤村

壁面2に年譜を掲示することによって、島崎藤村の業績を紹介する。また、展示ケースBに藤村の作品として、資料館が所蔵する「千曲川旅情のうた」の書などを展示する。

(2) 大磯での暮らし

展示ケースB及び昇降台にて、昭和16年に大磯に借家して以降2年余りの生活を紹介する。当時の町屋園の写真や愛用品を展示し、大磯の住まいで執筆にとりかかり、絶筆となった『東方の門』を解説する。

(3) 菊池重三郎との交流

大磯に暮らしていた作家の菊池重三郎は、天明愛吉と共に藤村に大磯を紹介し、藤村が大磯に住まいを移してから、最も交流を持っていた。菊池と天明が藤村に大磯を紹介したエピソードや、菊池と藤村の故郷である馬籠とのつながり、馬籠における藤村記念事業について、資料館において寄託資料としてお預かりしている菊池重三郎関係資料を展示ケースAに展示することによって紹介する。

(4) 文人たちの交流

関東大震災後の大磯には、多くの文化人が別荘を構えるようになり、島崎藤村や菊池重三郎が大磯に暮らし始めた頃は、様々な文化人が集っていた。有島生馬、坂西志保、矢代幸雄、獅子文六と菊池重三郎の交流を、菊池重三郎関係資料にある書簡などから紹介する。

(5) 濱谷浩と島崎藤村

大磯で暮らし始めた写真家の濱谷浩は、島崎藤村の詩に基づいて撮影した馬籠の風景などの作品を遺している。濱谷浩の業績を紹介し、藤村に関わる作品を壁面1に展示する。展示にあたっては、濱谷浩写真資料館に御協力いただく。

〔関連企画〕

展示解説

日 時／令和4年10月30日(日)、11月13日(日)・27日(日) 14時00分～14時30分

場 所／郷土資料館 研修室

参加人数／1回目：14人、2回目：5人、3回目：11人

内 容／担当学芸員が展示内容を紹介する。

講演会「島崎藤村とモダン大磯町の1940年代」

日 時／令和4年11月12日(土) 14時00分～16時00分

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／国士舘大学教授 目野 由希 氏

参加人数／22人

内 容／企画展に関連して島崎藤村と大磯をテーマとした講演会を実施する。

濱谷浩写真展「大磯を愛した文化人」

期 間／令和4年11月19日(土)～12月11日(日)

場 所／図書館 展示コーナー

共 催／濱谷浩写真資料館

内 容／濱谷浩が撮影した大磯に居を構えるなど、ゆかりを持った文化人の肖像写真を展示する。

(担 当) 富田・伊藤・北水

冬季企画展「レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿

～自然科学を記録する～

期 間／令和5年1月21日(土)～2月19日(日)

開場日数／25日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約1,600点

料 金／無料

観覧者数／2,552人



趣 旨／イタリアの画家レオナルド・ダ・ヴィンチは、ルネサンス期を代表する芸術家として知られ、代表作の「モナ・リザ」のような絵画のみならず、数学、解剖学、工学など、当時の様々な学問に業績を残したとされている。その業績を知ることができるものに、彼が残した膨大な手稿がある。本展では、岩波書店から出版されたレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿の高精細複製物を活用し、自然事象の記録という観点からレオナルドの才能を紹介する。また、レオナルドが生きた同時代の日本、また、その後に生きた人々が、どのように自然事象を記録してきたのか、郷土資料館が所蔵する自然標本などを活用しながら、比較検証する。

内 容／岩波書店発行のレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿の複製物及び郷土資料館が所蔵する標本等を展示する。

(1) レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿

展示ケースA、Bにおいて、レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿の内、ウィンザー手稿の『風景、植物および水の習作』『解剖手稿』の複製物を展示する。

(2) 古典籍にみる自然科学

壁面1にて、江戸時代以降に出版された『解体新書』『百鳥図』『訓蒙図彙』などの動植物の図譜を紹介する。紹介する古典籍は、主に国立国会図書館が所蔵するものを活用した。

(3) 神奈川県生物に関する報告書

壁面2及び昇降台にて、近年の神奈川県内の動植物調査に関する報告書を紹介し、報告書に掲載されている動植物の標本を展示した。昆虫標本については、町内在住の昆虫研究家である渡辺康生氏にご協力いただき、同氏が採集された昆虫標本を展示した。

〔関連企画〕

「空飛ぶアート」体験

内 容／(株)ワコムが開発した「ユニバースアート」の技術を活用し、来館者が液晶タブレットによって入力した文字やイラストを、スマートフォンのアプリで大磯町内の上空に映し出すデジタルアート体験を実施した。

協 力／(株)ワコム

ギャラリートーク

日 時／令和5年1月28日(土)16時00分～17時15分

場 所／郷土資料館 企画展示室ほか

参加人数／22人

内 容／担当学芸員が企画展示を解説し、「空飛ぶアート」を参加者全員で体験した。

(担 当) 北水・富田・村田・高山

ミニ企画展「資料と証言に見る大磯と戦争」

期 間／令和4年7月2日(土)～8月31日(水)

開場日数／51日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／約20点

料 金／無料

観覧者数／2,379人

趣 旨／一昨年の終戦75年を契機として、日本の近代史における戦争が大磯に与えた影響を考察し、郷土資料館が所蔵する戦争関係資料と共に公表する展示会を企画した。本テーマは、大磯の地域史上、重要なテーマであり、郷土資料館にて定期的に情報を発信するため、展示会にて考察した内容をまとめたポスターを作成した。本展では、このポスターを初めて展示し、戦争中の大磯の様子を、特に町民に対して伝える機会として実施する。

内 容／「資料と証言に見る大磯と戦争」展ポスターの掲示と、実物資料の展示。実物資料は、空襲関係の資料として、焼夷弾、アルミ箔ロープ、消火弾、戦時中の衣類として、テツカブト、国民服、ゲートル、戦時中の品物として、陶製のガスコンロと鏡餅、防火用石灰を収納するために使われた木箱を展示した。

(担 当) 富田

### ミニ企画展「あの時、カーニバルがあった～大磯カーニバル全史～」

期 間／令和4年9月2日（金）～令和5年1月31日（火）

開場日数／121日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／約8点

料 金／無料

観覧者数／11,372人

趣 旨／大磯では、昭和29年から昭和35年まで、大磯カーニバルという行事が開催されていた。この行事は、海水浴の期間中に、より多くの人が大磯に集まることを目的として始められた行事で、大磯に居住した安田鞞彦などの著名人が審査した仮装コンクールなど、大きくにぎわったことが知られている。行事を撮影した写真などをポスターで紹介し、全7回の大磯カーニバルの全容に迫る。

内 容／大磯カーニバルの様子や内容を紹介するポスターを作成し、展示する。また、昭和31年に実施された第3回の映像を放映する。

（担 当）富田

### ミニ企画展「大磯で見られる砂浜の植物」

期 間／令和5年2月2日（木）～4月30日（日）

開場日数／74日間

会 場／郷土資料館 廻廊

出品点数／約9点

料 金／無料

観覧者数／5,807人

趣 旨／大磯町の海岸には、海岸でしか見ることができない植物が生育している。海岸の環境は、直射日光が降り注ぎ、潮風の影響、また風によって砂が移動するなど、生き物にとっては過酷な環境である。そのような環境で、たくましく育つ植物を紹介する。

内 容／大磯で見ることのできる砂浜の植物の紹介、過酷な環境下で生きる砂浜の植物の特徴、こゆるぎの浜と北浜海岸での植物相の違いなどのポスターを作成し、展示した。また、期間中に海岸の植物を観察し、その時に見られる植物の様子を写真で紹介した。

（担 当）村田

### 大磯自然発見コーナー

趣 旨／大磯町内で採集できる自然資料などを館内に展示し、自然観察の参考となる情報を提供する。自然環境に関心を高めるきっかけづくりにつなげる。

#### 〔第1回〕「大磯の海藻おしば標本」

期 間／令和4年4月20日（水）～8月31日（水）

出品点数／約23点

内 容／海の中の植物が地球温暖化のために重要な働きをしていること、また、海の役割・自然のつながりについて伝え、海藻おしば標本を展示する。

#### 〔第2回〕「貝の不思議」

期 間／令和4年9月10日（土）～12月28日（水）

出品点数／約10点

内 容／貝とはどんな生き物か、その成長過程や体のつくりを知ることにより身近な自然に目を向けるようになることを目的として、大磯でよく見られるフジツボ、コウイカの甲などを展示する。

#### 〔第3回〕「砂浜のいろいろ」

期 間／令和5年1月5日（木）～4月25日（火）

出品点数／約10点

内 容／砂浜の環境改善の啓発を目的として、採集した砂浜の砂や砂浜に生息する生き物を、クイズを交えて展示紹介する。

（担 当）高山・村田

## ■ 学級・講座

### <古文書裏打ちクラブ>

期 間／令和4年4月16日(土)、5月21日(土)、6月16日(土)、7月16日(土)、8月20日(土)、  
9月17日(土)、10月22日(土)、11月19日(土)、12月17日(土)、令和5年1月21  
日(土)、2月18日(土)、3月18日(土)

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／11人

参加人数／109人

活動内容／裏打ちの技術を学びながら、当館で所蔵している古文書の裏打ちを行うワークショップ。  
博物館資料の整理というボランティア的な性格を持つ活動として位置付け、平成16年度  
から継続している。活動内容は、昨年度に引き続き、襖に下張りされていた古文書の資料  
化を進める。なお、会員は、随時募集し、本年度は1名が入会し、3名が退会した。

(担 当) 富田

### <古文書解読クラブ>

期 日／令和4年4月2日(土)、5月7日(土)、6月4日(土)、7月2日(土)、8月6日(土)、  
9月3日(土)、10月8日(土)、11月5日(土)、12月3日(土)、令和5年1月7日(土)、  
2月4日(土)、3月4日(土)

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／13人

参加人数／93人

活動内容／郷土資料館が所蔵する古文書を会員と共に解読することにより、大磯の歴史を学び、古文  
書資料の活用を図ることを目的として、平成24年度から毎月第一土曜日を原則として活  
動を始めた。町指定文化財である大磯宿小島本陣資料の休泊帳を解読し、翻訳文を刊行す  
ることを目指している。また、引き続き、会員有志で毎週金曜日の活動を行い、大正期の  
大磯町の助役日誌を解読している。なお、本年度は会員を3名募集し、2名が入会した。  
成果として、資料館資料21「大磯町助役日誌」大正7年分(小見滋夫家旧蔵資料3)の翻  
刻文を刊行した。

(担 当) 富田

### <写真整理クラブ>

期 日／令和4年4月10日(日)・24日(日)、5月15日(日)・29日(日)、6月12日(日)・26  
日(日)、7月10日(日)・24日(日)、8月14日(日)・28日(日)、9月11日(日)・25日(日)、  
10月16日(日)・30日(日)、11月13日(日)・27日(日)、12月11日(日)・25日(日)、  
令和5年1月29日(日)、2月12日(日)・26日(日)、3月12日(日)・26日(日)

場 所／郷土資料館 研修室

会 員 数／4人

参加人数／82人

活動内容／郷土資料館が所蔵する写真を会員と共に整理し、資料の活用を図ることを目的として、平  
成28年度から毎月第二、第四日曜日を原則として活動を始めた。今年度も引き続き、町  
広報担当者が撮影した写真のフィルムをスキャンし、デジタル化する。また、必要に応じ  
てフィルムの清掃を行う。ネガフィルムのアルバム全28冊の内、16冊目(資料番号N16)  
まで、フィルムをデジタル化した。

(担 当) 富田

### <みんなで四季の生き物を調べよう>

期 日／令和4年4月23日(土)、7月9日(土)、令和5年2月25日(土)

※10月29日(土)は会員の都合により中止した。

場 所／西小磯、国府本郷の田んぼ周辺や山道

会 員 数／6人

参加人数／24人

活動内容／年4回、西小磯の田んぼ周辺や山道を歩き、春夏秋冬で動植物がどのように変化するのか観察をする。また、そこで見つけた発見を参加者同士で共有する。

(担当) 村田

### <海の教室>

特定の学問分野にかかわらず「海」をテーマに様々なことを体験し、楽しみながら海岸環境や海産生物についての知識を深めることを目的に平成12年度から実施している。

#### 「海の漂着物で君だけの作品を作ろう」

期 日／令和4年6月25日(土)、7月28日(木)

場 所／北浜海岸、郷土資料館 研修室

参加人数／12人(6月25日6人、7月28日6人)

内 容／漂着物には自然のもの、人工のもの、海のもの、陸のものなどがある。海岸を歩き、漂着物を拾うことにより、海の中には陸からでは見ることが出来ない生き物やその他、人の関わった様々なものが流れ着くことを知ることが出来る。それらの漂着物を使って作品を作ることによって身近な海の環境に目を向けるきっかけとする。

#### 「楽しい海藻おしばづくり」

期 日／令和4年7月27日(水)

場 所／郷土資料館 研修室

参加人数／14人(午前7人、午後7人)

内 容／現在全国的に磯焼けなど藻場が減少している。海の中の森の存在、働き、重要性、ブルーカーボンの話によって海の環境保全の大切さを解説し、照ヶ崎海岸をはじめ神奈川県で拾った海藻を使った海藻おしばづくりを行った。

#### 「海の森の万華鏡づくり」

期 日／令和4年8月23日(火)

場 所／郷土資料館 研修室

参加人数／24人(午前12人、午後12人)

内 容／海環境について各地で問題とされている今、海の生物クイズ、不思議な生物についての講話をし、さらには危険生物への注意喚起までつなげた。また、漂着海藻チップを使って万華鏡づくりを行った。

(担当) 高山・村田

## ■ 明治150年記念冊子作成委託

業務内容／明治150年記念事業を契機に、子どもたちの心に残り、いつまでも郷土を愛する心を持ち続けることのできる本を作成する。

契約期間／令和3年10月28日～令和4年12月23日

請負者／(株)かまくら春秋社

## ■ 博物館実習

令和4年度は3大学より3名の学生を受け入れた。実習期間は8月2日から6日及び7月21日(事前ガイダンス)、8月25日(課題等提出)の計7日間とした。

実習課程は、資料の整理などの実践的な作業、展示作成、学級活動の体験とした。展示作業では、常設展示室の「東海道大磯宿」コーナーにおいて、小島本陣資料の展示替えなどを行った。

### <実習生>

山本 紗恵子(東海大学)、西村 葵(青山学院大学)、伊藤 昌秀(日本大学)

<課程>

月 日	曜日	午 前	午 後
7月21日	木		ガイダンス／館内見学
8月2日	火	講義（博物館活動の概要）	特殊資料の取り扱い
8月3日	水	資料梱包／旧吉田茂邸の見学・活動説明	
8月4日	木	常設展示室展示替え（考古資料の展示）	常設展示室展示替え（歴史資料の展示）
8月5日	金	自然資料の整理	歴史資料の整理
8月6日	土	常設展示室展示替え／学級活動の運営（古文書解読クラブの参加）	
8月25日	木	課題提出	

（担 当）富田・村田・國見・北水

■ 博物館資料の整備

<資料整備委託>

映像フィルムデジタル化委託1

業務内容／8ミリフィルム「大磯カーニバル」のデジタル化

契約期間／令和4年5月13日～7月29日

請 負 者／アスプレス株式会社

映像フィルムデジタル化委託2

業務内容／8ミリフィルム「大磯歳時記」のデジタル化

契約期間／令和4年9月22日～10月26日

請 負 者／アスプレス株式会社

<歴史資料の整理>

平成30年度から、歴史資料を段階的に整理することとし、整理作業を進めている。本年度は、次のとおり整理を進めた。

文献資料（古文書等）

- ・適宜、文献資料として整理した資料の目録を追加した。

受入番号	資料群名	点数	受入番号	資料群名	点数
1985-0401 他	渡辺美代家旧蔵資料	22	2012-0808	飯田善雄家旧蔵資料	1
1988-0801	五島八左衛門家旧蔵資料	103	2012-0809	森田康夫家旧蔵資料	1
1988-0806 他	吉田茂治家旧蔵資料	12	2012-0810	浅野総一郎関係資料	1
1992-1107	関東大震災の談話集	1	2012-1002	NHK 歌謡ホール第17回演歌のすべて	1
1995-1003 他	西海誠家旧蔵資料	91	2013-0801	町村合併記録	1
2002-1206	木村純子家旧蔵資料	2	2014-0301	写真アルバム「台風による大磯海岸の記録」	1
2006-1205 他	西海栄喜繁家旧蔵資料	33	2014-0423	神奈川新報 第594号	1
2012-0601	大磯駅戦災記録簿	1	2014-1003	株券	5

コレクション資料

- ・吉田茂関係資料を新たに1点受け入れ、所蔵点数が4,641点になった。
- ・吉田茂関係資料の内、吉田家旧蔵資料（受入番号2017-0309）の書簡資料6点の翻刻作業を進めた。
- ・伊藤博文関係資料を新たに75点受け入れ、所蔵点数が144点になった。
- ・松本順関係資料を新たに1点受け入れ、所蔵点数が324点になった。
- ・城山荘関係資料を新たに33点受け入れ、所蔵点数が239点になった。
- ・島崎藤村関係資料を新たに53点受け入れ、所蔵点数が186点になった。
- ・鳴立庵関係資料を新たに6点受け入れ、所蔵点数が1,760点になった。

- ・安田鞞彦関係資料を新たに1点購入し、所蔵点数が13点になった。
- ・鈴木久五郎関係資料を整理した。総点数731点。

#### 美術品

- ・その他貴重資料を新たに12点受け入れ、所蔵点数が24点になった。

#### 絵葉書

- ・新たに4点購入、14点受け入れ、所蔵点数が942点になった。

#### 写真

- ・ホームページの収蔵資料データベースに、大磯町広報担当撮影写真の画像を19シリーズ公開した。公開した画像の件数は、計37シリーズ。

(担当) 富田・鷹野・飯野・中原・伊藤・加藤

### ■ 刊行物

#### <図録・冊子>

- |                               |         |                 |
|-------------------------------|---------|-----------------|
| ・『年報—令和3年度—』                  | A4判 40頁 | 400部 (令和4年8月刊)  |
| ・企画展図録『島崎藤村と大磯を愛した文人たち』       | A4判 40頁 | 800部 (令和4年10月刊) |
| ・資料館資料21『大磯町助役日誌(大正七年一月～一二月)』 | A4判 96頁 | 500部 (令和5年2月刊)  |
| ・『Report—大磯町郷土資料館だより』43       | A4判 8頁  | 800部 (令和5年3月刊)  |

#### <チラシ・パンフレット>

- |                            |       |                   |
|----------------------------|-------|-------------------|
| ・春季企画展『めぐってみよう！大磯宿』チラシ     | A4判両面 | 10,000部 (令和4年4月刊) |
| ・春季企画展『めぐってみよう！大磯宿』解説資料    | A4判4頁 | 500部 (令和4年4月刊)    |
| ・秋季企画展『島崎藤村と大磯を愛した文人たち』チラシ | A4判両面 | 10,000部 (令和4年9月刊) |

### ■ 視察・見学対応

#### <視察・見学の月別件数> 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視 察	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
見 学	0	1	2	0	0	0	1	2	0	1	0	0	7

#### <視察対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・群馬県川場村村長ほか／4月9日／20人(北水)
- ・和歌山市ほか／9月25日／3人(仲手川・富田)

#### <見学対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・県立神奈川近代文学館／5月31日、6月7日・10日／計53人(鷹野)
- ・相川考古館史跡会／10月30日／13人(國見)
- ・湘南桜友会／11月8日／20人(富田)

### ■ 取材対応

#### <刊行物>

- ・タウンニュース 令和4年4月22日掲載「石井本陣の間取り図初公開」(富田)
- ・神奈川新聞 令和4年5月27日掲載「春季企画展『めぐってみよう！大磯宿』」(富田)
- ・産経新聞 令和4年5月27日掲載「春季企画展『めぐってみよう！大磯宿』」(富田)
- ・読売新聞 令和4年9月上旬頃掲載「大磯・二宮の落花生に関する紹介」(富田)
- ・月刊誌『建築知識』 令和5年2月号掲載「旧島崎藤村邸の紹介」(富田)
- ・『週刊朝日』・『AERA』 令和4年11月号掲載「秋季企画展の紹介」(富田)
- ・神奈川新聞 令和4年10月21日頃掲載「秋季企画展の紹介」(富田)
- ・産経新聞 令和4年11月25日掲載「秋季企画展の紹介」(富田)
- ・タウンニュース 令和4年11月25日掲載「神明神社に新鳥居」(富田)
- ・読売新聞 令和4年12月9日対応「町内の東海道松並木について」(村田)



- ・タウンニュース 令和4年12月9日掲載「大磯での島崎藤村」(富田)
- ・東京新聞 令和4年12月10日掲載「秋季企画展の紹介」(中原)
- ・神奈川新聞 令和5年1月6日対応「湘南発祥の地について」(富田)
- ・朝日新聞 令和5年2月27日掲載「まちの記憶 旧大磯宿かいわい」(富田)
- ・タウンニュース 令和5年3月10日掲載「大磯と徳川家康に関するエピソード」(富田)

#### <テレビ>

- ・ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館 (令和4年4月26日初回放送)』「春季企画展『めぐって みよう！大磯宿』の紹介」(富田)
- ・ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館 (令和4年8月2日初回放送)』「『楽しい海藻おしばつくり』及びミニ企画展『資料と証言に見る大磯と戦争』の紹介」(富田)
- ・ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館 (令和4年11月15日初回放送)』「秋季企画展『島崎藤村と大磯を愛した文人たち』の紹介」(富田)
- ・ケーブルテレビ『ワイド情報カフェ湘南館 (令和5年1月31日初回放送)』「冬季企画展ギャラリー トークの紹介」(北水)

#### <ウェブサイト>

- ・地域情報サイト「えのぼ」 令和4年4月23日「春季企画展『めぐって みよう！大磯宿』」(富田)

### ■ レファレンス対応

- ・令和4年4月10日／寅年相模薬師如来5番の開帳について／個人 (富田)
- ・令和4年4月28日／大磯に茶屋が多くあった事について／個人 (富田)
- ・令和4年6月1日／図書館前の神像の石造物について／個人 (富田)
- ・令和4年6月9日／小野懐之碑文の拓本と石碑の所在について／立命館資料センター (富田)
- ・令和4年6月11日～12日／虎御前の恋人は五郎か十郎かについて／個人 (富田)
- ・令和4年6月26日／石神台地区50年記念のため過去の関係資料はないか／石神台自治会 (富田)
- ・令和4年7月7日／町内の横穴墓について／個人 (國見)
- ・令和4年7月20日／山縣有朋の妻の写真について／個人 (鷹野)
- ・令和4年7月7日～8月10日／池田家本邸の画像の所在確認／個人 (富田)
- ・令和4年8月5日／大磯の別荘の歴史について／森村学園中等部生徒 (鷹野)
- ・令和4年8月7日～9日／谷戸観音について／個人 (富田)
- ・令和4年8月9日／大磯駅の貴賓室がいつ頃から存在したか／小学館 (富田)
- ・令和4年8月17日／原田熊雄別邸のその後の様子について／個人 (富田)
- ・令和4年8月9日～28日／鳴立庵の板額の内容について (富田)
- ・令和4年8月31日～9月1日／新島襄終焉の地の資料について／個人 (富田)
- ・令和4年9月23日～25日／鳴立庵の比翼塚について／個人 (富田)
- ・令和4年10月3日／大磯女子敬業学舎について／個人 (鷹野)
- ・令和4年10月12日／鳴立庵13世庵主間宮宇山の兄について／個人 (富田)
- ・令和4年11月17日／島崎藤村が使用していた机の材質などについて／個人 (富田)
- ・令和4年11月20日／城山荘欄間の部材について／個人 (國見・中原・本田)
- ・令和4年11月22日／鳴立庵の芭蕉句碑の読み方について／個人 (富田)
- ・令和4年11月24日／町内の商店について／個人 (仲手川・鷹野)
- ・令和4年12月21日～23日／島崎藤村と敏樹の関係について／個人 (富田)
- ・令和4年12月27日／浮世絵の東海道五十三次「平塚」について／個人 (富田)
- ・令和4年12月27日／村井弦斎と大磯について／個人 (富田)
- ・令和5年1月11日／大縄釣りに関して／(株)ビスポ (鷹野・石井)
- ・令和5年1月22日／西小磯の渡辺牧場の位置について／個人 (鷹野)
- ・令和5年1月25日／百済人と大磯について／個人 (鷹野)
- ・令和5年1月28日～31日／町内の道と鳴立川及び周辺環境について／個人 (富田)
- ・令和5年1月31日／菊池重三郎関係者とのインタビュー対応／個人 (富田)
- ・令和5年2月7日／大隈重信と陸奥宗光の友好関係と別荘建設の経緯について／個人 (鷹野)
- ・令和5年2月8日／王子製紙取締役・鈴木梅四郎関係資料について／個人 (富田)
- ・令和5年2月10日／高麗二丁目茅葺屋根建物床の間の扁額について／個人 (鷹野)

- ・令和5年2月11日／石神台遺跡、横穴墓について／個人（國見）
- ・令和5年2月11日／『未来へつなぐ想い わたしたちの大磯の歴史』題字について／個人（鷹野）
- ・令和5年2月20日／電電公社寮（昭和30年代頃）所在地について／個人（鷹野）
- ・令和5年3月9日／高麗神社神像、横穴墓、常設展示資料について／個人（國見）

## ■ ホームページを活用した情報発信

### <ホームページの更新>

- ・休館情報や求人情報などを公開した。
- ・収蔵資料データベースで公開する資料を追加した。
- ・「100年前の大磯～小見助役の一日～」を更新した。

### <ブログの更新>

- ・年間を通して、郷土資料館は18回、旧吉田茂邸は3回更新した。

### <SNSの利用>

- ・Twitterは、年間を通して111回投稿し、1,132件の反応があった。フォロワー数は1,311件。
- ・Facebookは、年間を通して110回投稿し、530件の反応があった。フォロワー数は321件。
- ・Instagramは、年間を通して65回投稿し、1,796件の反応があった。フォロワー数は216件。

※フォロワー数は、令和5年5月12日確認。

## ■ 博物館資料の収集、整備、利用

### <寄贈資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	寄贈者
2022-0501	R4. 5. 21	山神輿装束一式	一式	古瀬恭良
2022-0601	R4. 6. 3	会席膳・角盆 ほか	7	小林佳代子
2022-0602	R4. 6. 7	書籍『哈爾浜分廠誌』	10	加藤善康
2022-0604	R4. 6. 19	巻物『甲子兵燹図』上下	2	簗島雄治
2022-0605	R4. 6. 28	書幅「独身成千古」	1	高橋伸幸
2022-0605	R4. 6. 28	書籍『濱谷浩写真集成』	一式	高橋伸幸
2022-0701	R4. 7. 6	城山荘関係資料	12	金子暁男
2022-0801	R4. 8. 31	徽章	4	加藤千恵子
2022-0901	R4. 9. 14	写真	一括	飯田福信
2022-1001	R4. 10. 5	写真	一括	肥沼恵一
2022-1002	R4. 10. 7	吉田茂の関連雑誌	2	望月芳
2022-1102	R4. 11. 16	学校教材、婚礼装束小物 ほか	一括	瀬川啓子
2022-1203	R4. 12. 25	滄浪閣平面図	2	石井道朗
2023-0103	R5. 1. 6	絵葉書	一括	高木知己
2023-0201	R5. 2. 9	書籍『高元』	一式	桜井申一
2023-0201	R5. 2. 9	城山荘関係資料	21	桜井申一
2023-0301	R5. 3. 29	色紙	6	鈴木眞一郎

### <移管資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	移管元
2023-0101	R5. 1. 4	イタゴ、伊藤博文の花瓶 ほか	一括	大磯小学校

### <購入資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	購入先
2022-0603	R4. 6. 17	古典籍『諸国道中袖鏡』	1	福地書店
2022-1101	R4. 11. 4	震災地応急測図原図（複製）	3	（一財）日本地図センター
2022-1201	R4. 12. 11	絵葉書	4	鶴庵

No.	受入年月日	資料名	数量	購入先
2022-1202	R4. 12. 11	加藤高明書	2	福地書店
2023-0102	R5. 1. 5	安田鞞彦短冊	1	福地書店

<寄託資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	寄託者
2	S63.6.1	山高帽	一括	西小磯東区長
5	S63.9.2	四季耕作図 他	11	個人
16	H1.12.9	子ども会旗・七夕資料	一括	西小磯西子ども会
17	H1.8.8	菊池重三郎関係資料	1,510	個人
22	H4.4.1	稻荷講資料	一括	個人
23	H4.4.1	雛人形	一括	個人
28	H5.7.22	吉田茂杯 他	5	大磯中学校
30	H6.4.12	掛軸 他	一括	西小磯東区長・西小磯西区長
32	H7.9.12	獅子頭	2 (1 対)	裡道区長
35	H13.7.17	屏風 他	一括	南本町区長
37	H15.4.1	木造神像群	12	高来神社
39	H21.4.17	扁額 他	1	国府中学校
40	H21.12.24	伊藤博文書幅	1	個人
41	H22.2.1	大久保家資料	一括	個人
43	H23.6.29	掛軸	1	個人
44	H26.8.12	脇差	1	個人
45	H27.3.6	鈴木芳如関係資料	156	個人
46	H27.4.16	画幅「七福神」 他	2	個人
48	H27.8.4	わきざし 他	8	個人
49	H27.8.4	わきざし	1	個人
50	H28.6.29	袖がらみ 他	2	個人
51	H28.4.5	杉戸絵 他	10	国土交通省関東地方整備局 国営昭和記念公園事務所
52	H28.10.13	国府祭 鷺舞資料	一式	六所神社
53	H29.7.13	城山荘関係資料	57	個人
54	H29.10.26	招仙閣関係資料	26	東光院
55	H29.1.5	日本国憲法草案	2	個人
56	H30.9.9	生沢二宮家資料	一括	個人
57	R2. 1. 7	安田鞞彦宛吉田茂書簡	一括	個人
58	R2. 3. 31	七賢堂関連資料	17	平塚土木事務所
59	R3. 9. 30	中島湘煙書簡	1	個人

※寄託期間は最長2年とし、2年以降は更新を行う。現在の寄託期間は、令和6年3月31日まで。

<資料の館外貸出>

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
8ミリフィルム「大磯カーニバル」	1	映像フィルムデジタル化委託	R4. 5. 17 ～R4. 7. 29	アスプレス (株)
随神 ほか	4	祭事	R4. 7. 15 ～R4. 7. 20	南本町地区
獅子頭	2	祭事	R4. 7. 16 ～R4. 7. 17	裡道地区

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
高来神社男神立像 (その1)、女神立像 (その3)、僧形立像 (その5)	3	企画展示	R4. 8. 15 ～R4. 11. 18	鎌倉市教育委員会
出征兵士を送る旗 ほか	10	パネル展示	R4. 8. 19 ～R4. 8. 30	伊勢原市
8ミリフィルム「大磯 歳時記」	1	映像フィルムデジタル化委 託	R4. 9. 22 ～R4. 10. 26	アスプレス (株)
トーチホルダ	1	大磯チャレンジフェスタ	R4. 10. 1 ～R4. 10. 2	大磯町
堂後下横穴墓群1号 墓刀子No20 ほか	3	資料保存処理委託及び資料 確認	R4. 10. 18 ～R5. 3. 10	東都文化財保存研究所
馬場台34地点 土師 器・須恵器 ほか	13	馬場地区文化祭	R4. 10. 21 ～R4. 10. 23	馬場地区
打製石斧・弓矢	4	二宮町生涯学習講座	R4. 11. 24 ～R4. 11. 27	個人
ユタンポ ほか	14	国府小学校3年生社会科「か わる道具とくらし」	R5. 1. 24 ～R5. 2. 15	国府小学校
馬場台68地点試掘調 査遺物	一式	資料接合処理及び資料確認	R5. 3. 23 ～R8. 1. 31	(有)相模考古学研 究所

#### <資料の特別利用>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
研究・学術	1	10	0	0	1	1	
刊行物掲載	2	1	2	5	3	1	
放映・動画配信	0	0	0	3	0	0	
ウェブ掲載	0	0	0	0	0	2	
展示	0	1	1	0	0	0	
展示資料の撮影	5	4	1	5	4	4	
その他	0	0	1	0	0	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研究・学術	0	2	1	3	2	2	23
刊行物掲載	1	2	0	0	1	1	19
放映・動画配信	1	0	0	1	0	1	6
ウェブ掲載	0	0	0	0	0	1	3
展示	0	1	0	0	0	0	3
展示資料の撮影	16	14	8	0	2	3	66
その他	1	0	1	0	0	0	3

#### ■ 文献資料収集状況

##### <寄贈機関・関係団体一覧>

《県内》

[大磯町]

エリザベス・サンダース・ホーム、NPO 法人大磯ガイド協会、大磯小学校 PTA、大磯町教育委員会、大磯町青少年指導員連絡協議会

[茅ヶ崎市]

茅ヶ崎市教育委員会、茅ヶ崎市文化振興財団、茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団

[秦野市]

野生動物救護の会、秦野市教育委員会

- [藤沢市] 神奈川県立総合教育センター、湘南考古学同好会、日本大学生物資源科学部博物館、藤沢市教育委員会、藤沢市藤澤浮世絵館、藤沢市文書館
- [平塚市] 平岡学園平岡幼稚園、平塚市教育委員会、平塚空襲と戦災を記録する会、平塚市博物館
- [伊勢原市] 公益財団法人雨岳文庫
- [寒川町] 寒川町史編集委員会
- [小田原市] 小田原市、小田原市教育委員会、小田原市郷土文化館、小田原史談会、小田原市立中央図書館地域コーナー、小田原城天守閣、神奈川県立生命の星・地球博物館
- [箱根町] 箱根町立郷土資料館
- [山北町] 山北町地方史研究会
- [横浜市] 岩崎博物館、馬の博物館、NPO 法人神奈川県歩け歩け協会、神奈川県、神奈川県教育委員会、神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課中村町駐在事務所、神奈川県植物調査会、神奈川県町村会、神奈川県博物館協会、神奈川県文化財課、神奈川県民俗芸能保存協会、神奈川県立神奈川近代文学館、神奈川県立公文書館、神奈川県立図書館、神奈川県立歴史博物館、かながわ考古学財団、神奈川新聞社、神奈川文学振興会、シルク博物館、JICA 横浜海外移住資料館、玉川文化財研究所、鶴見大学博物館学芸員課程、馬事文化財団、睦合文化財株式会社、横浜植物会、横浜市歴史博物館、横浜都市発展記念館
- [川崎市] 川崎市教育委員会、川崎市市民ミュージアム、川崎市立日本民家園
- [鎌倉市] 鎌倉国宝館、鎌倉考古学研究所、鎌倉市教育委員会、鎌倉文化研究会、宗教法人浄智寺、鶴岡八幡宮社務所
- [横須賀市] 観音崎自然博物館、横須賀市教育委員会、横須賀市自然・人文博物館
- [葉山町] 葉山しおさい博物館
- [厚木市] 厚木市教育委員会
- [相模原市] 相模原市教育委員会
- [海老名市] おさだ進治事務所
- [逗子市] 逗子市教育委員会
- [大和市] 大和市教育委員会、大和市文化スポーツ部文化振興課
- [三浦市] 三浦市教育委員会
- [真鶴町] 真鶴町立中川一政美術館
- [清川村] 丹沢自然保護協会
- 《県外》
- [茨城県] 稲敷市立歴史民俗資料館、かすみがうら市歴史博物館、小美玉市玉里史料館、小美玉市文化スポーツ振興部生涯学習課
- [栃木県] 小山市立博物館、栃木県立博物館
- [埼玉県] 埼玉県立川の博物館、税務大学校租税史料室、富士見市立難波田城資料館、ふじみ野市教育委員会、立正大学博物館
- [千葉県] 伊能忠敬記念館、国立歴史民俗博物館、市立市川考古博物館、市立市川歴史博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、千葉県立中央博物館、飛ノ台史跡公園博物館、船橋市教育委員会、船橋市郷土資料館、松戸市立博物館
- [東京都] ICOM-DRMC、昭島・歴史をよむ会、朝日新聞出版、吾妻考古学研究所、板橋区教育委員会、板橋区立郷土資料館、一般財団法人出版文化産業振興財団、岩波書店、エクスマレッジ、桜美林大学資格・教職センター博物館学芸員課程、お札と切手の博物館、株式会社RNA、株式会社シグレゴコチ、外務省外交史料館、学習院大学学芸員課程委員会、清瀬市郷土博物館、公益財団法人利用運輸振興会、国立ハンセン病資料館、国際文化財、四門、JCII フォトサロン、衆議院憲政記念館、昭和館、大成エンジニアリング、玉川大学教育博物館、調布市郷土博物館、東京家政学院生活文化博物館、東京書籍、東京都江戸東京博物館、豊島区立郷土資料館、豊島区立鈴木信太郎記念館、豊島区立雑司が谷旧宣教師館、日本芸術文化振興会、日本近代文学館、日本博物館協会、パスコ、日野市郷土資料館、日野市ふるさと文化財課、日野市立新選組のふるさと歴史館、PHP 研究所、福生古文書研究会、府中市郷土の森博物館、文化財活用センター、文化庁、文化庁文化財第二課、文京ふるさと歴史館、

堀文子記念館、堀文子ホルトノキの会、町田市立自由民権資料館、三井不動産レジデンシャル株式会社、港区教育委員会、港区立郷土歴史館、森ビル株式会社、明治大学学芸員養成課程、明治安田クオリティオブライフ文化財団事務局、靖国神社社務所

[静岡県]	伊豆の国市教育委員会、静岡県立美術館、沼津市歴史民俗資料館、浜松市博物館、三島市教育委員会、三島市郷土資料館、三島地域資料調査会
[愛知県]	安城市歴史博物館、豊橋市美術博物館
[山梨県]	環境省自然環境局生物多様性センター、南アルプス市教育委員会
[群馬県]	渋川市教育委員会
[長野県]	諏訪市博物館、茅野市神長官守矢史料館、茅野市八ヶ岳総合博物館
[新潟県]	十日町市博物館
[三重県]	鈴鹿市考古博物館
[和歌山県]	和歌山県立自然博物館、和歌山県立文書館
[滋賀県]	草津宿街道交流館
[大阪府]	大阪市立自然史博物館、富田林市教育委員会
[兵庫県]	人と防災未来センター、姫路科学館
[京都府]	スタジオ三十三、淡交社
[広島県]	株式会社熊平製作所
[高知県]	高知県牧野記念財団
[岩手県]	奥州市牛の博物館、北上市立博物館
[福島県]	白河市歴史民俗資料館、小峰城歴史館
[青森県]	青森県立郷土館
[北海道]	帯広百年記念館、沙流川歴史館、美幌博物館
[佐賀県]	有田町歴史民俗資料館
[宮崎県]	都城島津邸
[福岡県]	九州国立博物館
[大分県]	大分県立歴史博物館

## 旧吉田茂邸（郷土資料館別館）学芸活動

### ■ ミニ企画展

ミニパネル展「吉田茂と安田靫彦—大磯が結んだ二人の縁—」

期 間／令和4年4月2日(土)～9月30日(金)

開場日数／151日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／10,266人

趣 旨／大磯町に長く暮らした画家の安田靫彦と吉田茂に焦点をあて、二人の交流やエピソードを紹介し、あわせて関連する当館所蔵資料を展示する。

内 容／

#### (1) 大磯町初の名誉町民

安田靫彦と吉田茂は昭和40年(1965)に大磯町初の名誉町民に選ばれた。二人はともに大磯に長く暮らし、文化人、政治家としていずれも世に知られた人物だった。安田靫彦のプロフィールと、大磯でのエピソード、また吉田茂が安田靫彦に依頼した絵画(「富士秋霽」)を紹介する。

#### (2) 国立近代美術館の建設

国立近代美術館が北の丸に移転する際、安田靫彦から吉田茂に働きかけがあったエピソードを紹介する。



(3) チャーチルと富士の絵

吉田茂は、昭和 29 年（1954）首相として最後の外遊の際、イギリスでチャーチル首相と面会した。その際、チャーチルが日本の富士山が好きだという話を吉田が聞き、安田靫彦に富士の絵を依頼したというエピソードを紹介する。

〔関連行事〕

講演会「安田靫彦絵画の魅力と大磯」

日 時／令和 4 年 6 月 26 日（日）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟

講 師／安田靫彦令孫 安田 由紀夫 氏・平塚市美術館学芸員 勝山 滋 氏

参加人数／30 人

内 容／長年大磯に居住した画家・安田靫彦について、大磯での暮らしぶりや絵画の魅力、さらに同じく大磯に居住した吉田茂との交流を、講師の両氏にトークセッション方式でお話しいただいた。

（担 当）久保庭・鷹野・北水

ミニパネル展「吉田茂と三人の父」

期 間／令和 4 年 10 月 2 日（日）～令和 5 年 3 月 31 日（金）

開場日数／145 日間

会 場／旧吉田茂邸 展示・休憩室

観覧者数／13,214 人

趣 旨／吉田茂の実父・竹内綱、養父・吉田健三、岳父・牧野伸顕の三人に焦点をあて、それぞれの人物像や交流、吉田茂に与えた影響などを紹介する。

内 容／

(1) 吉田茂の生い立ち

吉田茂の出生から吉田家の養子を経て、牧野雪子との結婚に至るまでを紹介する。

(2) 実父・竹内綱

竹内綱について、土佐藩家老・伊賀氏の重臣としてのエピソードや実業家・自由民権運動家としての面を取り上げ、その中で吉田茂との共通点や影響などを紹介する。

(3) 養父・吉田健三

吉田健三について、一般に知られる実業家としての面を取り上げるほか、吉田茂に影響を与えたであろう吉田健三の人物像やエピソードを紹介する。また、竹内綱との交流についても取り上げる。

(4) 岳父・牧野伸顕

ここでは吉田茂が牧野伸顕を頼った「獵官運動」や、二・二六事件でのエピソードなどを中心に紹介する。

〔関連行事〕

講演会「吉田健三が活躍した時代の横浜」

日 時／令和 5 年 3 月 26 日（日）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所／郷土資料館 研修室

講 師／横浜開港資料館館長 西川 武臣 氏

参加人数／31 人

内 容／吉田茂の養父・吉田健三が貿易商として活躍した明治初期ごろの横浜の様子についてお話しいただいた。

（担 当）鷹野

■ 講演会

七賢堂特別開扉講演会「吉田茂の対中国政策—昭和初期奉天総領事・外務次官時代—」

日 時／令和 4 年 9 月 17 日（土）13 時 30 分～15 時 00 分

場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟



講師／元中央大学文学部教授 佐藤 元英 氏

参加人数／26 人

趣 旨／県立大磯城山公園が主催する七賢堂特別開扉にあわせて、七賢堂に関する講演会を実施し、吉田茂と旧吉田茂邸への関心を広める。

内 容／日本が「幣原外交」から「田中外交」へと転換した時期に奉天総領事を務めた吉田茂が、どのような対満蒙政策を実施したのか、当時の情勢を交えてお話しいただいた。

(担 当) 鷹野

### 旧吉田茂邸建築講演会・見学会「吉田五十八の近代数寄屋と吉田茂邸」

日 時／令和 4 年 11 月 23 日 (水・祝) 13 時 30 分～15 時 00 分

場 所／県立大磯城山公園 旧吉田茂邸地区 管理休憩棟

講 師／関東学院大学名誉教授 水沼 淑子 氏・NPO 法人大磯ガイド協会

参 加 費／660 円

参加人数／24 人

趣 旨／県立大磯城山公園及びNPO 法人大磯ガイド協会と連携し、旧吉田茂邸の建築について知見を深める。

内 容／講演では、吉田五十八の近代数寄屋建築について、その特徴や日本の建築史における位置づけについてお話しいただいた。その後の見学会では、吉田五十八の建築の特徴に注目して、旧吉田茂邸を見学した。

(担 当) 鷹野



## ■ 博物館資料の整備

### < 収蔵資料整備 >

#### 刀剣点検

業務内容／吉田家旧蔵資料のうち、刀剣「兼定」について点検を行った。

契約期間／令和 4 年 12 月 14 日

請 負 者／小野敬博

### < 館外資料調査 >

#### 国立国会図書館所蔵吉田茂関係資料の複写撮影

業務内容／国立国会図書館憲政資料室所蔵の安齋正助関係文書のうち、吉田茂宛書簡 53 通を複写した。

実 施 日／令和 4 年 12 月 2 日

## ■ 調度品等の整備

### < 調度品製作委託 >

#### 旧吉田茂邸調度品製作委託

業務内容／旧吉田茂邸の浴室調度品を製作し、新館 2 階の浴室に設置する。

契約期間／令和 4 年 9 月 21 日 ～令和 5 年 2 月 28 日

請 負 者／(株) 日展東京支店

## ■ 刊行物

### < チラシ・パンフレット >

- ・講演会「吉田茂の対中国政策」チラシ
- ・旧吉田茂邸建築講演会・見学会チラシ
- ・講演会「吉田健三が活躍した時代の横浜」チラシ
- ・旧吉田茂邸案内チラシ
- ・旧吉田茂邸案内パンフレット

A4 判片面 500 部 (令和 4 年 9 月刊)

A4 判片面 1,200 部 (令和 4 年 10 月刊)

A4 判片面 900 部 (令和 5 年 2 月刊)

A4 判片面 5,000 部 (令和 5 年 3 月刊)

A4 判両面 三つ折 2,000 部 (令和 5 年 3 月刊)



## ■ 視察・見学対応

<視察・見学の月別件数> 単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
視 察	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	8
見 学	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3

<視察対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・神奈川県県土整備局都市部都市公園課長・平塚土木事務所長・平塚土木事務所道路都市課長ほか（明治記念大磯邸園関係）／4月18日／10人（北水）
- ・国土交通省関東地方整備局長・国営昭和記念公園事務所長・建政部公園調整官ほか（明治記念大磯邸園関係）／4月18日／5人（北水）
- ・NEC、住友林業、エレコム会長他／5月28日／6人（北水）
- ・国土交通省都市整備局長ほか（明治記念大磯邸園関係）／8月18日（北水）

<見学対応> 館職員が対応した団体のみ記載

- ・外務省招へいプログラムにおける視察／3月12日／2人（鷹野）

## ■ 取材対応

<刊行物>

- ・共同通信社 令和4年9月14日取材「吉田茂の国葬について」（鷹野）
- ・タウンニュース 令和5年3月31日掲載「旧吉田邸新商品紹介」（鷹野）

<テレビ>

- ・大阪読売テレビ『ニュース番組（令和4年7月20日放送）』「吉田茂の国葬について」（鷹野）
- ・TBSテレビ『報道特集（令和4年9月10日放送）』「吉田茂の国葬について紹介」
- ・NHK『ニュース番組（令和4年9月27日放送）』「吉田茂の国葬について紹介」（仲手川）
- ・テレビ東京『よじごじDays（令和4年10月26日放送）』「旧吉田茂邸金の間について紹介」（仲手川・鷹野）
- ・BSフジ『小峠英二の試乗最高！（令和4年12月26日放送）』「旧吉田茂邸の紹介」（仲手川）

## ■ レファレンス対応

- ・令和4年4月16日／旧吉田茂邸の兜門について／個人（鷹野）
- ・令和4年8月13日／「吉田学校」について／毎日放送（鷹野）
- ・令和4年10月18日～25日／吉田茂の色紙について／個人（鷹野）

## 開館5周年記念事業

旧吉田茂邸は、令和4年度に開館5周年を迎えた。節目の年を迎え、開館5周年記念事業の冠を付した事業を実施する。

### 春のダイヤモンド富士見学会

日 時／令和4年4月10日（日）17時00分～18時15分

会 場／旧吉田茂邸

協 力／産業能率大学川野邊ゼミ

参加人数／25人（産業能率大学川野邊ゼミの学生10人を除く）

内 容／ダイヤモンド富士を旧吉田茂邸内の金の間・銀の間・ローズルームから見学した。また、産業能率大学との連携事業として、産業能率大学川野邊ゼミの学生がダイヤモンド富士や

旧吉田茂邸内の様子を撮影した。  
(担 当) 久保庭・鷹野・北水

#### 秋のダイヤモンド富士見学会 ※悪天候のため中止

日 時／令和4年9月2日(金) 17時00分～18時15分

会 場／旧吉田茂邸

内 容／ダイヤモンド富士を旧吉田茂邸内の金の間・銀の間・ローズルームから見学する予定であった。

(担 当) 鷹野・北水

#### 関連グッズの販売

開館5周年を記念して、旧吉田茂邸で販売するグッズを新たに作成し、販売した。新たに作成したグッズはトートバッグとA5クリアファイルであり、トートバッグを9月17日(土)から、A5クリアファイルを10月22日(土)から、チャーム、根付けを3月11日(土)から、手拭いを3月21日(火)から販売した。令和5年3月31日までの販売実績は、トートバッグが82点、A5クリアファイルが46点、チャームが16点、根付けが5点、手拭いが10点であった。

## 学芸員の調査、研究、普及活動

#### <通年の活動>

- ・神奈川県博物館協会理事／年間(國見)
- ・東海地区博物館連絡協議会役員／年間(國見)
- ・アジア太平洋戦争期の相武地域史研究会／年間／東海大学(富田・鷹野)

#### <庁内事業への協力>

- ・新採用職員研修講義／令和4年4月13日(國見)
- ・鳴立庵展示ケースの展示／令和4年5月6日、7月27日、10月20日、令和5年2月10日(富田)
- ・生涯学習課青少年おもしろ講座旧吉田茂邸開館5周年記念「旧吉田茂邸体験講座」／令和4年7月31日～8月1日(國見・仲手川・鷹野)
- ・青少年指導員連絡協議会自主事業「ナイトハイク&ミュージアム」／令和4年8月6日(國見・村田)

#### <学校教育との連携>

##### 郷土資料館の見学・学習指導

講義名	月日	場所	担当
大磯小学校1年生遠足	5月27日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
大磯小学校3年生遠足	6月10日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	村田
県立二宮高等学校教員社会体験研修	8月4日 ～5日	郷土資料館・旧吉田茂邸	富田・鷹野・村田
茅ヶ崎市立第一中学校教員社会体験研修	8月4日 ～5日	郷土資料館・旧吉田茂邸	富田・鷹野・村田
令和4年度大磯町新採用等教職員夏季研修会	8月16日・17日	郷土資料館・旧吉田茂邸	國見・北水
大磯中学校1年生総合学習	10月21日	郷土資料館・旧吉田茂邸	—

講義名	月日	場所	担当
苗もんもん保育園遠足	11月18日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—
国府小学校 5年生総合学習「大磯町の絶滅危惧種や生き物について」	2月2日	郷土資料館	北水・ 村田
たかとり幼稚園遠足	3月3日	県立大磯城山公園 (ふれあい広場)	—

#### 学校等への講師派遣

講義名	月日	場所	担当
国府小学校 3年生総合学習「たくさん知りたい大磯町」	5月27日	国府小学校	富田・ 村田
国府小学校・中学校生沢分校「海の環境の学習」と「作品作り」	6月3日	国府小学校・中学校 生沢分校	村田・ 高山
小田原市立城南中学校「ビーチコーミング実習」	7月1日	小田原市立城南中 学校	北水・ 村田
大磯小学校 3年生総合学習「海浜植物について」	12月2日	北浜海岸	村田
専修大学学芸員課程セミナー「博物館、学芸員のリアル」	12月17日	専修大学生田校舎	國見

#### <各種団体との連携・協力>

##### 各種団体への講師派遣

講義名	月日	場所	担当
嶋立庵講座「歴代庵主と嶋立庵」	7月30日	嶋立庵	富田
大磯城山公園調査隊「あつまれ！アメリカザリガニ一斉捕獲大作戦」	8月17日	県立大磯城山公園 (不動池)	村田
町職員出前講座「大磯町の歴史等について」	8月20日	町立ふれあい会館 (北本町町内会)	富田
明治記念大磯邸園秋のイベント「大磯の歴史について」	9月17日	明治記念大磯邸園	北水
吉田茂のガーデンパーティー講話「写真でみる吉田茂邸の変遷」	10月1日	県立大磯城山公園 (旧吉田茂邸地区管 理棟)	鷹野
中区小・中学校退職校長会研修会「大磯の歴史的文化的ゆかりの地を巡る」	11月1日	明治記念大磯邸園ほ か	國見
令和4年度OISO学び塾「別荘地大磯の考古学～発掘調査等の成果と近代の遺物～」	1月28日	郷土資料館	國見
令和4年度OISO学び塾「文化財ウォーク・大磯の天然記念物その2」	3月11日	郷土資料館～旧吉田 茂邸～国府新宿地区	北水

#### <学会・研究会との連携>

##### 研修会・会議出席等

名称	月日	場所	担当
令和4年度神奈川県博物館協会第1回役員会・総会	5月11日	県立歴史博物館	國見
アジア太平洋戦争期の相武地域史研究会	6月29日	オンライン会議	富田・ 鷹野
令和4年度神奈川県博物館協会第2回役員会	11月2日	県立歴史博物館	國見
川崎市市民ミュージアムレスキュー活動	12月22日	川崎市市民ミュージ アム	富田

<執筆>

國見 徹

2023. 3. 「常設展示室から～赤煉瓦資料の回顧～」  
『Report－大磯町郷土資料館だより』43 大磯町郷土資料館

富田 三紗子

2022. 10. 『島崎藤村と大磯を愛した文人たち』 大磯町郷土資料館  
2023. 2. 資料館資料21『大磯町助役日誌（大正七年一月～一二月）』 大磯町郷土資料館  
2023. 3. 「【所蔵資料紹介】林董関係資料」  
『Report－大磯町郷土資料館だより』43 大磯町郷土資料館  
2023. 3. 「翻訳『紛争終結後国家のための法の支配ツール アーカイブズ（その1）』  
『レコード・マネジメント』No.84 記録管理学会<共著>  
2023. 3. 「公文書の保存期間基準表と評価選別基準－公文書の価値に関する一考察－」  
『記録と史料』第33号 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

久保庭 萌

2023. 3. 「第314回定例研究会参加記『進化を続ける新潟のアーカイブズ』」  
『全史料協関東部会会報 アーキビスト』No.99 全史料協関東部会  
2023. 3. 「翻訳『紛争終結後国家のための法の支配ツール アーカイブズ（その1）』  
『レコード・マネジメント』No.84 記録管理学会<共著>

鷹野 真子

2023. 3. 「旧吉田茂邸開館5周年」『Report－大磯町郷土資料館だより』43 大磯町郷土資料館  
2023. 3. 「【コラム】吉田邸、謎の大釜」  
『Report－大磯町郷土資料館だより』43 大磯町郷土資料館

伊藤 匠

2022. 8. 「大久保家資料『覚書』にみる小田原藩」『年報－令和3年度－』 大磯町郷土資料館  
2023. 3. 「内務省復興局の研究－組織実態と疑獄事件－」『中央史学』第46号 中央史学会

# 研究報告

---



- (24) 明治元年一二月「覚」(生沢二宮家資料―町史七六)
- (25) 明治元〓二年「人足勤覚」(生沢二宮家資料―町史七八)
- (26) 明治二年五月「御馬内割取立帳」(生沢二宮家資料―町史九一)
- (27) 明治二年三月「人別書上帳」(生沢二宮家資料―町史八五)
- (28) 同注(25)。
- (29) 弘化五(一八四八)年二月「大磯宿助郷人馬賄方の規定」(前掲注(9)、一〇〇〓一〇二頁)、前掲注(22)、嘉永六年三月「御伝馬賄方規定書之事」(大磯町教育委員会編『相州淘綾郡大磯宿伝馬関係資料』第二輯、大磯町教育委員会、一九七〇年、七四〓七八頁)
- (30) 前掲注(29)、弘化五年二月「大磯宿助郷人馬賄方の規定」。
- (31) この時の助郷役の割付率は、一石に付き二貫六〇〇文であったことが、表3からわかる。ただし、新兵衛については計算が合わない。
- (32) 生沢二宮家資料―町史七九。
- (33) 拙稿「江戸幕府伝馬制度と地域金融構造―東海道藤沢宿の分析を中心に―」(『交通史研究』第七一号、二〇一〇年)、同「東海道藤沢宿はどこから馬を集めたか―馬持の分布と地理的条件に関する一考察―」(『郷土神奈川』第四九号、二〇一一年)
- (34) 同注(15)。

沢村の人別帳からは三三人の人足と一三人の馬持がいたことがわかり、大磯宿の助郷村の中でも実際に人馬を提供する村落であったと考えられる。生沢村の名主が助郷惣代を務めていることも、人馬を提供する村落として助郷村を代表すべき立場にあったことが関係しているのかもしれない。

明治五年には駅通の改革が行われ、宿駅制度と助郷制度は終焉を迎える。助郷役の勤めは、実際にはほとんど金銭納に代えられ、本来の制度は事実上破綻していたといえよう。しかしながら、宿駅制度が存在することによって、宿駅の周辺村落には賃稼ぎをして生活する人々が存在した。生沢二宮家資料に見られる助郷役出勤の実態は、大磯宿の助郷村にもそのような人々が存在したことを示している。

注

- (1) 江戸時代の宿駅制度については、児玉幸多『近世宿駅制度の研究増訂版』吉川弘文館、一九六五年、丸山雍成『近世宿駅の基礎的研究第一』吉川弘文館、一九七五年などがある。
- (2) 大磯町編『大磯町史』6通史編古代・中世・近世、大磯町、二〇〇四年
- (3) 同注(2)、大磯町教育委員会編『相州陶綾郡旧村方資料』第一輯、大磯町教育委員会、一九七二年
- (4) 大磯町郷土資料館寄託資料。
- (5) 前掲注(2)、三六一頁。
- (6) 大磯町編『大磯町史』1資料編古代・中世・近世(1)、大磯町、一九九六年、四五〇～四五二頁。
- (7) 貞享三年四月「生沢村田畑差出帳」(前掲注(6)、四五八～四六二頁)

(8) 同注(7)。

(9) 元禄七年三月「請証文」(大磯町編『大磯町史』2資料編近世(2)、大磯町、一九九九年、四～五頁)

(10) 天保五年「宿方明細調書上帳控」(大磯町教育委員会編『相州陶綾郡大磯宿伝馬関係資料』第一輯、大磯町教育委員会、一九六九年、一三九～一四八頁)

(11) 享和三年「大磯宿書上」(前掲注(10)、四六～七一頁)

(12) 生沢二宮家資料―町史三六。

(13) 生沢二宮家資料―町史三九。

(14) 生沢二宮家資料―町史四一、四九。

(15) 下中邦彦編『神奈川県の地名』平凡社、一九八四年

(16) 天保五年九月「寺坂村地誌御調書上帳」(前掲注(6)、五〇六～五一〇頁)

(17) 慶応四年正月「御伝馬并諸人用割請取帳」(生沢二宮家資料―町史五一)

(18) 同注(9)。

(19) 同注(10)。

(20) 同注(11)。

(21) 拙稿「助郷会所とその運営―東海道藤沢宿を事例として―」(『藤沢市史研究』第四〇号、二〇〇七年)

(22) 嘉永六(一八五三)年正月「御伝馬勤方大磯宿助郷和融中規定扣写」(二宮町編『二宮町史』資料編1原始 古代 中世 近世、一九九〇年、七五六～七五九頁)

(23) 元治元年一〇月「人馬賃銭割増分を助郷組々へ分配願」(前掲注(9)、一四五～一四六頁)



表3 生沢村谷戸分人足・馬持の持高と出勤状況の関係

人名	年齢	人足/馬	持高	割付額	勤め額	内訳	差引
久右衛門	45	人足	2.8013	7.353	2.200	平役6人半	5.153
甚兵衛	47	人足	5.3586	14.066	2.572	平役6人、さし1人	11.490
梅五郎			1.82854	4.800	3.272	平7人、下役1人、さし1人	1.528
源右衛門	39	人足	0.1	0.260	4.472	平3人、さし1人、下り1人、馬4疋	-4.212
竹五郎	45	人足	1.3133	3.444	2.872	平6人、下1人、さし1人	0.568
万右衛門			4.12726	10.834	2.900	平6人、半1人、下り1人	7.934
政右衛門	52	馬	2.162	5.676	7.600	平5人、馬8疋	-1.924
近右衛門	49	人足	2.743	7.200	1.550	平3人、さし2人	5.650
和兵衛		人足	0.8266	2.695	1.772	平3人、半2人、さし1人	0.923
平兵衛	48	馬	5.134	13.215	3.872	平4人、半2人、下り1人、さし1人、馬2疋	9.339
利兵衛	32	馬	7.3426	19.274	4.200	平1人、下1人、馬5疋	15.074
市兵衛	25	人足	0.6559	1.722	1.372	平2人、半2人、さし1人	0.346
嘉右衛門	33	人足	5.7803	17.345	1.948	平3人、さし2人、半2人	15.393
治兵衛	40	馬	13.239	34.752	4.200	馬6疋	30.552
徳右衛門			6.286596	16.500			16.500
新兵衛			0.566	3.225			3.225
常五郎			1.37333	3.605			3.605
弥市	33	人足	0.514663	1.324			1.324
仁左衛門				2.483			2.483
古右衛門			1.75056	4.595			4.595
新左衛門	37	人足	2.49466	6.548			6.548
繁二郎				3.276			3.276
時五郎			0.192	0.504			0.504

単位：持高は石。割付額、勤め額、差引（割付額-勤め額）は貫文。

出典：明治2年正月「田畑合高帳」（生沢二宮家資料-町史79）、同年3月「人別書上帳」（同-町史85）、同年5月「御馬内割取立帳」（同-町史91）

注）差引額に4文の誤差がある者は、96文を100文に換算する慣行によるものと考えられる。

る三人中九人は人馬を全く出していない。人馬を出していない者の中には、入分として生沢村の土地を所有しているだけで、別の村に所属していた可能性がある者もいるため、そのような理由から、史料中に人馬の出勤が表れていない可能性もある。

生沢村谷戸分の特徴として、全体的に村民の持高が低く、表3中で最も高を持つ者も一三石余りである。明治二年正月「田畑合高帳」<sup>(32)</sup>によると、そもそもこの村は、名主である平次郎の持高が四一石余りと突出しており、その他の村民は表3で一三石余りを持つ治兵衛以外持高が一〇石以下という構成になっていた。つまり、この村では、名主平次郎を除いて、大半の村民が実働として人馬を提供する立場にあり、助郷役による出勤を賃稼ぎの手段としていた可能性がある。

#### 五 おわりに

筆者はかつて、東海道藤沢宿を対象として、助郷人馬の出勤状況を詳細に調査した。その際、宿駅の周辺村落Ⅱ助郷村は、地理的な条件や人馬数、産業といった村落構造の特徴によって、人馬そのものを出して稼ぎとする村落と、金銭を納めることによって助郷役の勤めを果たす村落とに分かれ、地域的な金融システムを背景に、宿駅制度を維持していた地域構造を有していた<sup>(33)</sup>。

改めて本稿にて分析対象とした生沢村と寺坂村の特徴をみると、両村は明治九年当時、馬一五疋を有しており、馬数が比較的多い村落であったことが推測できる<sup>(34)</sup>。また、生

表2 生沢村谷戸分人足出勤状況

年	月	日	人数	備考
明治元(1868)	12	朔	5	半役、さし共
		3	6	内さし1人
		4	8	内さし1人
		5	4	さし共
		7	5	さし共
		8	5	さし共
		11	6	半役、さし共
		12	3	内さし1人
		14	2	内さし1人
		19	2	
		27	1	
明治2(1869)	正	10	1	
		11	2	
		14	2	
		19	6	さし共
		29	2	
	2	朔	3	
		7	1	
		3	20	7

明治元年「人足勤覚」(生沢二宮家資料・町史78)より作成。

其模様ニ寄半役相増候歟、亦者ニツ役ニいたし候共、其時々見計取賄可申事」とあり、時間外の割増賃金が適用される役であった可能性がある<sup>(30)</sup>。

この史料から人足を勤めた人名を具体的に見ると、頻繁に人足として勤めている者とそうではない者とはに分かれる。さらに、そのことを具体的に示す史料が、取立帳と人別帳である。取立帳は人馬を勤めた者の出勤額と割付額を差引き、勘定した帳面で、名寄せで記されている。人別帳は村内の人足・馬持を書上げ、番号順に持高と年齢が記されている。両帳面に見られる人物を基準として、帳面に記載された内容をまとめたものが表3である。

前項で述べた通り、助郷の役金は年間の賦課率を決めた上で、年に数回に分けて徴収するが、実際に勤めた人馬を換算して精算することによって、助郷役の勤めを助郷村間で平均<sup>な</sup>らして、この方法は村落間だけでなく、村内の村民間でも同じことが行われていた。

いことがわかる。なお、史料には、「半役」「さし」「下り役」の語が見え、それぞれで集計しているが、これはそれぞれ賃金に違いがあったため、特に注記し集計を行ったものと推測される。「さし」はいわゆる差役で、人足を取りまとめる役にあつた者であろう。「下り役」は、登り人足と下り人足との違いを示す。冒頭で述べた通り、大磯宿は隣宿の平塚宿との距離が近かつた。そのため、下り側の平塚宿まで継立てる際は、賃金が安かつたと考えられる<sup>(29)</sup>。「半役」については、弘化五年に定められた助郷人馬の賄

方の規定によると、その二条目の但書に「且人馬勤方刻限之儀者、夕七ツ時迄ニ限可申事、尤御通行ニ寄鎌倉・江之嶋廻り等ニ而御延刻ニ御越茂有之候儀暁与相分り候ハ、譬七ツ半時ニ至り候とも人馬之もの共差留置、

表3に見られる生沢村谷戸分の事例は、そのような村民間の平均しを示す。まず、持高に応じて助郷役を賃額に換算し<sup>(31)</sup>、実際に勤めた金額を合計して割付額から差引く。そして、差額から不足がある場合はその不足分を徴収し、割付額より多い場合は、次の役金を徴収する際、つまり、表3に表した明治二年五月時点では七月分の徴収金に振替えた。

この精算状況から、生沢村谷戸分の村人の中でも、人足と馬を実際に出せる者と出せない(あるいは出さなかつた)者がいたことがわかる。まず、この中で人足と馬を多く出し、差引額を振替えることができた者が二人いる。この二人は、賃稼ぎとして助郷役を担っていた可能性が高い。その他、人馬を頻繁に出していたと考えられる者が二人おり、表3で表示してい

二月、四月、七月、九月、一二月の五回に分けて徴収しており<sup>(22)</sup>、表1からもその状況が窺える。また、伝馬金の徴収方法として、領収書や控えに見られる差出と受取に

表 1-1 寺坂村下分伝馬金支出

年代	月	日	額	支出理由
慶応4(1868)	3	21	金14両	御伝馬出金
	4	13	金8両	御伝馬割
	閏4	15	金3両	4月賄
	8	朔	金1両錢20貫文	不足賄金
明治元(1868)	9	18	錢33貫文	9月御伝馬内割
	10	3	金6両2分	御伝馬金20両割
	11	11	金1両2分錢20貫文	11月御伝馬金
	11	22	錢35貫文	11月御伝馬金
明治2(1869)	12	29	錢35文、錢60貫文	伝馬金

表 1-2 生沢村谷戸分伝馬金支出

年代	月	日	額	支出理由
慶応4(1868)	閏4	18	金10両	御伝馬金
	6	15	金1両2分2朱	御伝馬出金残り
	8	朔	金10両	進発御伝馬出金
明治元(1868)	11	23	錢86貫400文	御伝馬割
	12	7	金18両	御還幸御伝馬出金

表 1-1 は慶応 4 年正月「御伝馬并諸入用割請取帳」(生沢二宮家資料-町史 51)、表 1-2 は「覚」(同-町史 58、同-町史 146、同-町史 147、同-町史 153、同-町史 158) より作成。

注目すると、表 1・1 に表した寺坂村下分の支払いは、いずれも寺坂村上分に対して行われ、表 1・2 に表した生沢村谷戸分の支払いは、同じ生沢村の別の領分の名主が惣代を務めた西郷会所に対して行われている。このことは、相給村落である寺坂村の伝馬金の取りまとめを、上分の名主が行っていた可能性を示し、一方で、生沢村谷戸分の支払い方からは、西郷会所の機能を示している。

西郷は助郷組合の西組のことを指すようで、元治元(一八六四)年一〇月の史料からその呼称が見られる<sup>(23)</sup>。会所はいわゆる助郷会所のことであり、西郷会所が実際に伝馬金を徴収していたことが、生沢村谷戸分の領収書からわかる。なお、表 1・2 には反映しなかったが、明治元年一二月七日の御還幸伝馬出金は、同日に寺坂村が西郷会所へ同じ名目で支払ったことを示す領収書が残されている<sup>(24)</sup>。

#### 四 生沢村谷戸分の助郷勤め

生沢村谷戸分には、人馬勤めを行った記録となる人足帳<sup>(25)</sup>や精算勘定を行った取立帳<sup>(26)</sup>、人足と馬持の持高を書上げた人別帳<sup>(27)</sup>があるため、村民一人一人が、どの程度の頻度で助郷役として出勤したのかを分析することができる。

表 2 は、明治元(一八六八)年一二月から同二年三月までの生沢村谷戸分の人馬勤めを記録した人足帳<sup>(28)</sup>の内容をまとめたものである。本史料は月日と勤めた人数の他に人名も記されているが、表では人数のみをまとめた。

この表からは、一二月は通行が多く、割と頻繁に人足を出しているが、年末年始を境に人足の数が減り、二月、三月はほとんど人足を出していない

## 二 生沢村と寺坂村

生沢二宮家は、生沢村谷戸分の名主を務めた家である。生沢村は寛永一〇（一六三三）年から四給となり、寛文九（一六六九）年から内一給分が小田原藩領となった<sup>5</sup>。谷戸分はこの小田原藩領分である<sup>6</sup>。貞享三（一六八六）年の村高は五四八石七斗三升九合、内小田原藩領分は一一一石七斗三升九合であった<sup>7</sup>。また、小田原藩領分の家数は一七軒、人数は一一五人である<sup>8</sup>。

助郷は元禄七年の指定では大助として指定され<sup>9</sup>、享保一〇年の助郷再編以降は定助郷を勤めた<sup>10</sup>。助郷高は、元禄七年では五五四石、享和三（一八〇三）年では五四九石であった<sup>11</sup>。

生沢二宮家に関する近世期の史料はその大半が嘉永期以降のものであり、この時期に当主であった者は、惣右衛門と平次郎（または平治郎）である。惣右衛門は安政六（一八五九）年<sup>12</sup>、文久三（一八六三）年<sup>13</sup>に寺坂村と生沢村の兼帯名主を務め、平次郎は元治元（一八六四）年に名主見習を経て慶応三（一八六七）年に寺坂村と生沢村の兼帯名主を務めた<sup>14</sup>。

両人が兼帯名主を務めた寺坂村は、宝永六（一七〇九）年から旗本領及び小田原藩領の三給となり<sup>15</sup>、村高二四八石八斗二升九合、その内、小田原藩領は三六石五斗九升二合で家数六軒、旗本村越領は一六七石で家数三一軒、旗本深谷領は四五石二斗三升七合で家数一軒という構成になっていた<sup>16</sup>。惣右衛門と平次郎は寺坂村の内、下分の兼帯名主を務めており、下分は旗本深谷領にあたる<sup>17</sup>。寺坂村もまた、元禄七年に大助を指定され<sup>18</sup>、享保一〇年の助郷再編以降は定助郷を勤めた<sup>19</sup>。助郷高は、元禄七年では二二〇石、享和三年では二三七石であった<sup>20</sup>。

## 三 生沢村と寺坂村の伝馬金支出

生沢二宮家資料に見られる助郷関係の史料は、慶応四（一八六八）〜明治二（一八六九）年のわずかな期間のものが数点残されている程度である。この時期は、江戸時代から明治時代へ世の中が大きく変わり、街道の通行も最早参勤交代はなく、幕末動乱期の將軍上洛や御進発も過ぎ、明治五年の伝馬所・助郷の廃止が目前となった時代にあたる。つまり、宿駅助郷制度の終焉期を示す史料であることには注意したい。

これらの史料を大きく分けると、生沢村谷戸分及び寺坂村下分全体の伝馬金（助郷役金）の領収書（控えを含む）と、生沢村谷戸分村民の助郷役出勤状況を示す人足帳などである。数点とはいえ、大磯宿にはほとんど助郷の出勤実態を示す史料がないため、その状況を窺い知るには重要な手がかりとなる。まずは、伝馬金の領収書から、両村がどれだけ伝馬金を支出していたのかを検証する。

助郷役は原則、人馬そのものを徴集する。しかし、実際は人馬を賄うための費用が発生するため、金銭を事前に徴収し、後日精算する方法を取った。つまり、さながら代銭納の形式になっていた。

例えば、東海道藤沢宿では次のような方法で、助郷人馬を徴集し、賃金を精算している。まず、年の始めにその年に納める役金の額を決め、各助郷村に割り当て、二月、七月、一二月に分けて徴収する。そして、平常時は、一部の助郷村へ助郷会所が決めた分のみを割当て、通行量が多い時は大役と称し、全助郷村へ助郷高に応じた分を割当てた。最後に、年締めで年末に、人馬で勤めたときの賃金と先に納めた役金などを精算し、各助郷村に返金、もしくは不足分を再徴収した<sup>21</sup>。

この方法はある程度、多くの宿駅の助郷に共通していたと推測できる。表1は、伝馬金の領収書やその控えから、寺坂村下分と生沢村谷戸分の伝馬金に関する支出をまとめたものである。大磯宿の助郷の場合、伝馬金は

東海道大磯宿助郷人馬の勤め方

―相模国淘綾郡生沢村・寺坂村の事例から―

富田 三紗子（当館学芸員）

一 はじめに

江戸時代の街道の宿駅には、隣宿へ人馬を継ぎ立てる役割があった。特に公用の人馬継立については、伝馬人足役として、所有屋敷の間口に応じて人馬を供出しなければならなかった。五街道では東海道が百人百足など、常備する人馬数が決められていたが、常備している人馬数では足りない場合、宿駅の周辺村落に助郷役が課された<sup>(1)</sup>。

東海道大磯宿は江戸から八番目の宿駅で、現在の大磯町に位置する。東小磯村が宿駅の機能を補填する加宿に指定され、宿全体は山王町、神明町、北本町から構成される北組、台町（東小磯村）、茶屋（石船）町、南本町から構成される南組に分かれていた。両組に一軒ずつ問屋場が置かれ、一日交替で継立を担った。宿高七〇一石四斗七升五合二勺と規模が小さいながら、本陣三軒、旅籠屋六六〇八五軒と宿泊施設が多いことが特徴である。また、平塚宿との距離が二七町（約三キロメートル）と短く、平塚宿と一緒に藤沢宿や小田原宿まで継ぎ立てる、助合（最合）<sup>(2)</sup> という勤め方を行っていた<sup>(3)</sup>。

大磯宿の助郷は、元禄七（一六九四）年に指定され、指定された村落は定助・大助計二六ヶ村、助郷高一四、七一四石であった。東海道では、その後、享保一〇（一七二五）年に助郷帳が下付されるが、大磯宿では確認できていない。その後の明細帳などによると、再編された定助郷の総数は三〇ヶ村、助郷高一、〇五六石であった。大磯宿の助郷に指定された村々の位置は図の通りである。三〇ヶ村の助郷村は、現在の大磯町大磯地区（西

小磯を除く）と国府地区（西小磯を含む）を境に東組と西組に分かれ、それぞれが助郷会所を宿場町に持ち、助郷役を差配していたようである<sup>(3)</sup>。複数の助郷村を取りまとめ、人馬を徴集する方法は、ある程度いづれの宿でも共通するが、各宿あるいは村落間の関係によってその方法は多岐にわたった。本稿では、生沢二宮家資料<sup>(4)</sup>に残された助郷人馬の割付に関する史料を対象として、生沢村と寺坂村の助郷の勤め方を分析し、大磯宿の定助郷の勤め方の一端を明らかにする。

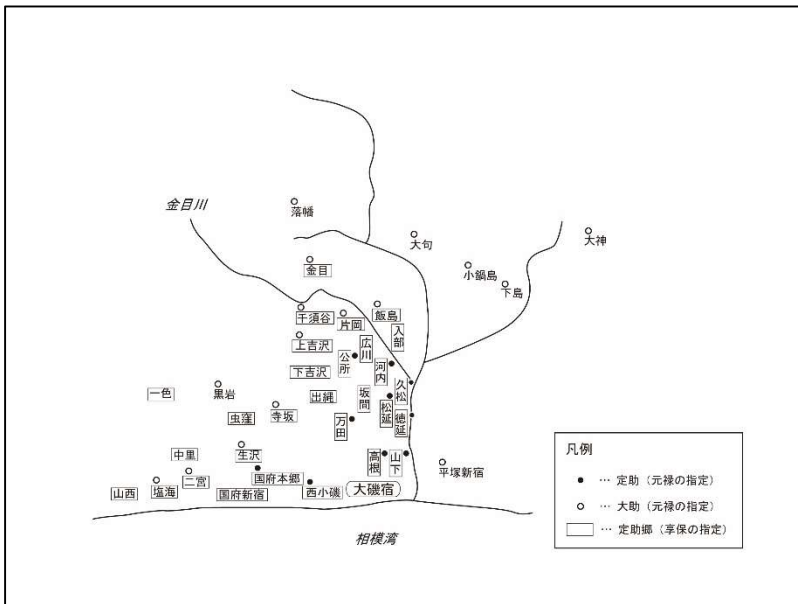


図 大磯宿の助郷村

大磯宿助郷分布図1（『大磯町史』2 資料編副読本 57 頁）を参考に、元禄7年3月「請証文」（『大磯町史』2）、天保5年「宿方明細調査上帳控」（『相州淘綾郡大磯宿伝馬関係資料』第1輯）より作成。

- (3) 近世歴史資料研究会編『江戸幕府編纂物篇【7】御實紀一「東照宮御實紀」解説篇』(科学書院、二〇一九年)。以下、『御実紀』と略す。
- (4) 松平親氏公顕彰会編『松平氏由緒書』(松平親氏公顕彰会、一九九四年)。「松平氏由緒書」は近世初期に、旗本松平太郎左衛門家によって作成された口伝書で、一九七一年に発見された。
- (5) 平野明夫『三河松平一族』(新人物往来社、二〇〇二年)、小宮山敏和「三河大名としての徳川氏」(笠谷和比古編『徳川家康 その政治と文化・芸能』(宮帯出版社、二〇一六年)、柴裕之『青年家康 松平元康の実像』(KADOKAWA、二〇一二年)。
- (6) 「御前髪」(「大久保家資料」二一五七―八六)元服の際に切ったと思われる前髪が残されている。
- (7) 前掲『清浄光寺史』二二三―二三五頁。
- (8) 引用に際して書き下し文に改めた。
- (9) 前掲『清浄光寺史』二二八頁。
- (10) 江田郁夫『室町幕府東国支配の研究』(高志書院、二〇〇八年)八一―八二頁。
- (11) 遠山元浩「清浄光寺蔵「後醍醐天皇像」関連史料の一考察」(『駒沢女子大学研究紀要』二二号、二〇一四年)。
- (12) 前掲『清浄光寺史』二二二頁。

の経緯と矛盾することになる。

遊行十二代尊観法親王は、貞和五年（一三四九）に生まれた人物で、南朝の龜山天皇の皇子、常盤井恒明親王の子と伝えられている。延文五年（一三六〇）に遊行八代渡船の弟子となり、嘉慶元年（一三八七）二月に遊行の法燈を継ぐ。その後、各地を遊行し応永七年（一四〇〇）一〇月二四日に山口県下関市の専念寺で入寂する。尊観は「縁起」の中でも実在を確認できる数少ない人物であり、そのため尊観と有親父子の関係について考察する必要がある。

尊観は応永三年八月に上洛して後小松天皇に拝謁している。その際に、代々の遊行上人が南朝門跡として参内することを許されている。また、京都醍醐寺門跡昶尊法親王（後醍醐天皇皇子）から『絹本著色後醍醐天皇御像』を相承している<sup>(11)</sup>。

「縁起」では、応永二年末に有親父子が上州の所領に戻り、その年の内に尊観の弟子となる。応永三年元日に有親は「迎僧寄志願」を作成し、その後、清浄光寺に宇賀神像と共に奉納する。一方、親氏泰親兄弟は尊観に従い、応永三年五月に称名寺でそれぞれ松平氏と酒井氏の養子となる。尊観の上洛はその年の八月である。「鬼宿」が応永三年の場合、有親父子は応永三年に起きた小山若丸の乱に参加していないことになる。一方、「鬼宿」が応永三年を指すのではなく、有親父子は小山若丸の乱に参加した場合、有親父子は応永四年末に上州に戻るようになるため、応永三年八月に上洛した尊観とは上州でも称名寺でも出会っていないことになる。

このように「迎僧寄志願」には、有親父子と尊観のエピソードと小山若丸の乱との整合性といった問題が存在している。そのため、「縁起」は、尊観の行動に当てはめる形で、有親父子の動向が書かれたものと考えることができ。従って、「迎僧寄志願」は尊観の行動と有親父子の行動に整合

性を持たせ、徳川家の先祖と時宗に関連があることを示すために創られた偽文書の可能性を指摘することができる。

#### 五 おわりに

「縁起」は、徳川将軍家と清浄光寺の繋がりを強調するために、有親が奉納したとされる宇賀神像を題材として創られた可能性がある。

『清浄光寺史』では、上州新田領祝人村の亮弁という僧が、延宝年間に家に伝わる宇賀神像を安置する神殿を江戸に建てようとしたが叶わず、延享三年（一七四六）になって清浄光寺の善察が持参して清浄光寺に安置したという異説を紹介している<sup>(12)</sup>。あるいは、この説が事実に近いのかもしれない。

ただし、「縁起」が「恐惶秘録」という名前で筆写されていることから、少なくとも大久保忠衛には真実味のある話として信じられていたと考えられる。当時の人たちの、徳川将軍家への意識を知る手掛かりになるのではないだろうか。

#### 謝辞

本稿において調査対象とした大久保家資料は、大久保忠旦氏の御厚意によって、当館にご寄託いただいた史料である。記して感謝申し上げます。

#### 注

(1) 「恐惶秘録 宇賀神縁起 称名寺御由緒 将軍家上洛記」（大磯町郷土資料館寄託資料「大久保家資料」二―一二〇）。

(2) 清浄光寺史編集委員会編『清浄光寺史』（清浄光寺、二〇〇七年）二三五頁。

この解説に従えば、徳阿弥が「迎僧寄志願」を作成したのは、応永三年（一三九六）一月一日となる。

### （三）松平氏の継承

清浄光寺を出た徳阿弥は、遠江国大知波（現在の静岡県湖西市）の向雲寺で尊観と二人の子と再会する。その後、徳阿弥も尊観に随逐することになる。

応永三年五月、尊観が三河国大濱称名寺で御札化益をしていた際、連歌会が開かれることになった。称名寺の住持其阿弥陀仏は連歌の達人で、松平村の太郎左衛門家と酒井村の雅楽助家を弟子としており、この連歌会にも両家の当主が参加していた。両家の当主は、この連歌会の手伝いをしてきた長阿弥（親氏）と松寿丸（泰親）を見込んで自身の養子とする。「縁起」によればその顛末は次の通りである。

〔連歌の〕執筆ヲハ長阿弥公勤メラレケル時、両家ニハ長阿弥公ト喝食松寿丸殿トノ容体ヲ熟ト見テ、此御兩人尋常ノ人ニアラス、由緒アラン事ヲ上人ニ尋ネ奉ルニ、上人両家ヘ其御由緒ヲ包マス語ラセタモフ。時ニ両家談シ合テ上人ヘ願ハレケルハ、我等両家近郷ノ百姓ニテ貧シテサレ共、家ヲ続ヘキ男子ナシ。上人長阿弥殿ニ御還俗ヲ御許シ、松寿丸殿ト共ニ我等両家ヘ与ヘタマハ、御兄弟ニ跡ヲ相続サセ度旨、頻リニ所望有ケレハ、上人悦ヒ斜ナラス。スナハチ所望ニ応シ、長阿弥公ニ御還俗ヲ許サセタマヒ、酒井村雅楽助親氏ト名乗セタマヒ、後三子ヲ儲サセラレ酒井徳太郎親清ト名乗セケリ。是今時酒井一統ノ元祖也。松寿丸殿ヲハ松平村太郎左衛門方ヘ遣サレ、後ニ松平太郎左衛門尉泰親公ト名乗ラセタマヒ、御子二人御出生有。嫡子ヲ竹若丸ト申テ太郎左衛門ノ家ヲ続、二男竹松君後ニ信光ト申シ奉ル。是御当家御

先祖也。

ここで問題となるのが、松平氏を継いだのが弟の泰親とする点である。冒頭で触れたように、『御実紀』では、有親の子の親氏が最終的に松平氏を継いだとしている。しかし、『縁起』では親氏は酒井氏を継いでおり、親氏が松平氏を継いだとする幕府の公式見解と異なっている。

また、徳阿弥は「松平郷二庵室ヲ修飾、永享十二（一四四〇）年迄此処ニ御住居」していたとする。ただし、『御実紀』では、親氏が酒井氏の養子になる前に、称名寺で没したとしている。つまり、『御実紀』に比べて「縁起」では、有親はかなり長く存命していたことになる。

このように「縁起」には、幕府の公式見解と明確に異なる記述が散見される。

### 四 「縁起」の検証

有親（徳阿弥）が清浄光寺に宇賀神像を奉納する際に添えた「迎僧寄志願」には矛盾した点がある。それが、「迎僧寄志願」の作成年月日を指す「歳ハ鬼宿、月ハ大簇、日ハ五徳二向フ」である。

「縁起」の解説では、「鬼宿」が応永三年を指すとしている。既に触れたように、「縁起」では、有親父子は小山若犬丸に与するも、応永二年に鎌倉公方に敗れて上州の所領に戻り、年明けに「迎僧寄志願」を作成したことになる。

ただし、小山若犬丸が鎌倉公方に征討された年は応永三年であって、応永二年ではない<sup>10</sup>。そのため、「迎僧寄志願」が小山若犬丸の乱の後に作成されたのであれば、「鬼宿」は応永四年を指していなければならない。しかし、「鬼宿」が応永三年を指すとすれば、「迎僧寄志願」は小山若犬丸の乱より前に作成されたことになるため、有親父子が尊観の弟子になるまで



ナシタマヒ、独阿松寿丸ト御改名」となった。喝食は稚児とも呼び、寺院で雑用を務める少年を意味する。従って、この時、泰親は元服していなかったと考えることができる。

晴れて弟子となつた有親は、尊観に「是子孫相統シ運ヲ開クノ基本也」と話せば、尊観は有親へ「単色ノ衣」を授けた。有親はそれを不思議に思つて、夢の中での出来事を話すと、尊観は「以小ハ大ニ敵フヘカラスト云古人ノ金言アリ。今只此場ヲ退キ時ノ至ルヲ待タマフヘシ」と答えた。「以小ハ大ニ敵フヘカラスト」とは、少数では多勢に敵わないという意味である。

有親は幕府に逼迫されて所領を立ち退くことを「御牙ヲ嚙セタマヒケル」ほど悔しがらる。しかし、「我子孫類葉東耀セン事ヲ」望み、「我存命ナル程ハ尊師ノ御憐愍ヲ忘ルヘカラスト志願ヲアラハシ、尊師ノ跡ヲ奉セント御盟ノ御言葉ヲ」述べてその場を辞去した。有親は、二人の子を尊観に預けて、一人「隱遁行脚」の身となった。

## (二) 宇賀神像奉納と「迎僧寄志願」

尊観や二人の子と別れて上州を出た有親こと徳阿弥は、時宗総本山である清浄光寺へ赴いた。しかし、鎌倉に近いことを懸念した徳阿弥は、「御守本尊宇賀神ノ尊像並ニ御自筆ノ御願状」を清浄光寺に奉納して、尊観の「御修行先へ詣ントテ上都ノ方へ独行」した。「御願状」は徳阿弥が上州の所領を出る前に作成されている。この時、奉納された「御願状」は次のとおりである<sup>(8)</sup>。

### 迎僧寄志願

同姓ノ逆賊猛威震フ。吾レ極運逼ル。経稔宇賀神ヲ崇敬シ、今急難有テ嘆祈ヲ為ス。其ノ夜、単色脱衣ノ僧来テ汝ニ衣ヲ送ル可シ、<sup>(9)</sup> 兒ヲ求テ此ノ困ヲ出ヨ。天命未ダ殺罰セズ。非時速ニ去ル可、再三詞ヲ加

フ。師ハ何ン人ソ。諸国偏行ノ者ナリ。枝葉天覆フ処住ト為ス。後山ニ宿ス。夢ハ覚タリ。信ニ武勇ノ士ハ敵ヲ追ヒ、弱将ハ命ヲ逃ル之夢ナリ。已ニ臨生ヲ辱フスルニ有、終ニ尊、向拜為、二世ノ誓盟ヲ作ス。士側ニ俟ス。隣里ニ僧有ヤ、耶山ノ後ロニ偏行ノ<sup>(10)</sup> 聖。在ス。此ノ時志シユルマリ、道ヲ求メ僧ヲ迎フ。不幸ハ道ノ本ナリ。盛衰ノ時ハ兒ヲ移スニ有。衣送ルニハタシテ単色。驚怖心ニアフレ夢ノ事ヲ披。聖リ退テ時ヲ待ツ可シ。我レ念起、逆党為ニ国出ンハ活前ノ恨也。子々累彦東国ニ栄ンコトヲ誓。存命ナラハ尊離レズ。志願ヲアラハシ師ニ奉ス。跡ヲ茂山ニ隠シ上邦ニ独歩ヲ為ス。丹精空勿レ。誠恐誠惶頓首再拜。

歳ハ鬼宿、月ハ大簇、日ハ五徳ニ向フ 徳阿弥

「迎僧寄志願」の内容自体は前節で触れたように、有親父子の閲歴と出家までの経緯を記したものである。その点をふまえた上で、子孫の東国での発展を宇賀神像に祈願して奉納したということになる。ただし、『清浄光寺史』によれば、この「迎僧寄志願」は江戸時代に入ってから作成されたもので、偽文書であるとしている<sup>(9)</sup>。

「縁起」では、「迎僧寄志願」の最後にある「歳ハ鬼宿、月ハ大簇、日ハ五徳ニ向フ」を次のように解説している。

歳鬼宿トハ応永三年ヲ指タモフ事也。太平記ノ頃ハ宣明曆ノ法ヲ以、廿八宿ノ星ヲ以テ、其年々ニ配当シ置、専也。然ルニ応永三年ハ廿八宿ノ中、鬼宿星ニ当ル。故ニ歳鬼宿ト書セタモフ也。月大簇トハ正月ノ異名ヲ大簇ト云。故ニ正月ヲ指テ月大簇ト認サセタモフ也。日向五徳トハ元日ノ事也。正月ノ元日ヲ鶏日ト云義ヲ以日向五徳書セタモフ也。鶏ニ五徳アル事ハ文武勇信仁ノ五徳ヲ具スルモノ也。〔中略〕今此処鶏日ト云ヘキヲ日向五徳ト書セタモフ也。

一月の清浄光寺の火災で焼失した宇賀神堂の再建のため、清浄光寺が寛政一〇年に作成し、幕府に提出した嘆願書「宇賀神堂再建願之事」に「縁起」と同様の記述がみられる。従って、「縁起」の原本は清浄光寺に存在し、それを何らかの形で大久保忠衛が筆写したものと推測することができる。

### 三 「縁起」の内容

#### (一) 有親父子の流浪と出家

「縁起」の記述は宇賀神像に関する説明から始まり、徳川氏の先祖の経歴、宇賀神像が清浄光寺に納められるまでの経緯、その際に作成された「御願状」について、そして有親父子の足跡と続く。まず、「縁起」の冒頭を次に示す。

抑当山〔清浄光寺〕ニ安置シ奉ル宇賀神ハ、弘法大師ノ御作ニシテ 御  
当家〔徳川家〕御先祖徳阿弥公御願状ヲ添サセラレ、当山ニ納メタモ  
フ尊像也。忝ク其来縁ヲ尋ネ奉ルニ 御当家ハ清和天皇ノ後胤、八幡  
太郎義家公ノ御孫、新田大炊助義重公第四ノ御子、世良田四郎義季公  
五代ノ孫、世良田太郎政義公ノ御孫、徳川左京助有親公後号、徳阿弥、御息親氏  
公後号、長岡弥、独阿松寿丸。応永二年〔一三九五〕十二月、未急難極運御遁  
レカタク、右御三方御形ヲ替サセラレ、仮ニ時宗ノ僧ト成ラセタマヒ、  
御本国上州新田領ヲ御立退、三河国ニ到ラセ、松平家、酒井家両家ヲ  
継セタマヒシ事、其次第三河記、御年譜、後風土記、大成記、啓運記  
等ニ其沙汰区也。然ルニ時宗相伝ノ一義、藤澤山宝庫ニ有是誠ニ正説  
ナラン

宇賀神像は弘法大師作で「徳阿弥公」によって「御願状」と共に納められたとしている。徳阿弥とは、清和源氏に連なる新田一族の世良田政義の孫、徳川有親を指す。この有親と二人の子、親氏と泰親が応永二年一〇月

に時宗の僧となつて、所領の上野国新田荘を立ち退き、三河国で松平家と酒井家を継ぐことになるとしている。そして、この経緯は「時宗相伝ノ一義」として、「正説」であると主張している。

次に有親父子がどのようにして、新田荘を出ることになったのかが記されている。徳川有親は新田一族として、鎌倉時代末期から南北朝の動乱を戦い抜いたが、至徳二年（一三八五）信濃国浪合で鎌倉公方の追討軍に敗れ、奥州塩釜に逃げ延びる。その後、応永二年奥州で鎌倉公方に抵抗する小山若丸に与するも、鎌倉公方の追討軍を前に逃散、有親父子は新田荘に戻り隠遁する。そこで、有親は親子三人ともども自害することを考え、ご本尊の宇賀神に「御運ノ拙サ」を嘆いたところ、次のような霊夢を見た。

脱衣ノ僧、単色ノ衣ヲ手ニ持来リ。此衣ヲ汝ニ授クヘシ。形ヲ引替テ  
此危キ処ヲ遁レ出ヘシ。天道イマタ汝等ヲ誅罰シタマハス。急キ此場  
ヲ立退クヘシト再三ノ給ヒケル間、貴僧ハ何方ヨリ来ラセタマモフ、  
イカナル方ニテ御ハシマスト問セタマヘハ、我ハ是諸国修行ノ僧也。  
少シノ木陰ヲ栖カトシ、念仏往生ノ道ヲ勸メテ今後ノ山寺ニ止宿スト  
云。

有親はこの夢をみて感激し、生きる希望を取り戻した。そして、夢に現れた僧侶が何者かを考え、近くのお寺で遊行十二代尊観法親王が「御札化益」をしていることを知る。「御札化益」とは、時宗独自の札配り行事を指す。

有親は早速二人の息子を連れて尊観法親王のもとを訪ね「今我々父子ノ身ノ上急難極運遁レカタク、尊師ノ座下ニ来ル。願ハクハ形ヲ替、御弟子ト成テ当難ヲ遁レン事ヲ頼マセタマヘ」と申し入れた。尊観は有親父子が弟子になることを受け入れ、有親と親氏は剃髪して「有親公徳阿弥、親氏公ヲ長阿弥ト御名ヲ改メサセ、無戒ノ沙弥ト」し、泰親は「有髪ノ喝食ニ

## 「藤澤山宇賀神縁起」について

伊藤 匠（当館学芸員（会計年度任用職員））

### 一 はじめに

本稿では、大磯町郷土資料館（以下、当館）が保管している「大久保家資料」より、文政八年（一八二五）に大久保忠衛によって筆写された「藤澤山宇賀神縁起」（以下、「縁起」）を紹介する<sup>①</sup>。

「大久保家資料」は、小田原藩の家老職を務めた大久保家（隅の大久保家）と称される）が収集作成した資料群で、所有者である大久保忠旦氏より寄託を受けている。現在、江戸期より昭和期にかけての資料約六〇〇点を当館にて整理保存している。

「縁起」とは、藤沢市西富に所在する時宗総本山の藤澤山清浄光寺（遊行寺）に安置されている宇賀神像の由緒を記した縁起である。「縁起」によると、宇賀神像は徳川家康の先祖にあたる有親という人物によって勧請されたとしている。この宇賀神像と徳川氏の関係について、『清浄光寺史』は「伝承の域を出ない」という見解を示している<sup>②</sup>。令和四年現在、宇賀神像は清浄光寺の宝物館に展示されている。

徳川氏の出自には不明な点が多い。江戸幕府によって編纂された『東照宮御実紀』によれば、徳川氏は清和源氏の家系で、鎌倉時代に新田庄世良田郷得川に居を構えたことから世良田氏を名乗ったとしている<sup>③</sup>。鎌倉幕府が倒れ、南北朝の動乱が始まると世良田氏は南朝方につき、一族のリーダーにあたる新田義貞に従って各地を転戦するも北朝方に敗北、世良田有親ら親子は時宗の僧となって三河国大濱称名寺に流れ着く。そこで、有親の子親氏は、まず酒井氏の養子となり、次いで松平氏の養子となる。そして、親氏の子孫が、徳川将軍家となる。これが、いわゆる「新田源氏末裔

説」である。

この幕府の見解も、「松平氏由緒書」の発見によって現在では否定されている<sup>④</sup>。「松平氏由緒書」は、江戸時代初期に作成された文書で、旗本松平太郎左衛門家の当主による口伝書である。「松平氏由緒書」では、親氏（信武）と表記される）は「東西をきらわすして牢流の者」と名乗っているとされている。「松平氏由緒書」が「新田源氏末裔説」を否定しているわけではないが、記述に「新田源氏末裔説」が一切出てこないことから、新田源氏と徳川氏にはつながりが無いという見方がされている<sup>⑤</sup>。

「縁起」は「新田源氏末裔説」を基礎に、徳川氏と清浄光寺の繋がりを強調している点に特徴がある。そこで本稿では、「縁起」の内容を紹介するとともに、その内容を検証することを目標とする。なお、本稿では史料の引用に際し、必要に応じて句読点を加えた。また、（ ）は引用者による注である。

### 二 「縁起」について

「縁起」を筆写した大久保忠衛（？〜一八八三）は、小田原藩の家老職を務めた「隅の大久保家」の当主で、文政三年（一八二〇）に元服したことが少なくとも確認できる<sup>⑥</sup>。忠衛の正確な生年月日は不明だが、「縁起」を筆写したころは、まだ若年だったことがわかる。

「縁起」は、「称名寺御由緒」「将軍家上洛記」と共にまとめられて「恐惶秘録」という題で冊子状に綴じられている。「称名寺御由緒」とは、親氏が松平氏の婿養子になるきっかけとなった連歌会が行われた称名寺（愛知県岡崎市藤川町中町南に所在）の由緒書で、「将軍家上洛記」は江戸幕府三代将軍徳川家光の上洛を記した文書である。

「縁起」の原本の所在はわからない。ただし、寛政六年（一七九四）一

葬儀に上京して以来、鍋島家の庇護の下で八十歳の天寿を全うし、大正七年（一九一八）五月に亡くなった。

二十三日 晴

此日あまり天気よければ、御伯母様\*と御一所に平塚へ松露とりに十二時四十八分にて行。行みればたく山あつてうれしく、そら又くくくといふやうに出、五時五十分にて大磯へかへる。

\* 御伯母様 慈貞院。

二十五日 天気

今日のかま倉へ行。八時二十八分にて出かけ、鎌倉へ九時ころに着す。それより少しの内御話をしてお庭へ行。かへりて御せんをいただき、それより又つみくさに行、かへりておやつをたべ、そろくしてかへる。又はんけちをふりなどしてかへりぬ。

二十六日 雨

終日降つづき、外出なし。

二十七日 くもり

朝まだ少し降いれればいかがと思ひいたりしに、午後より晴、おなごりに一寸運動に出る。少し村の方へ行けば道わるく、どろの中に下駄はまり、たはたひもなく\*よごれたり。

\* たはたひもなく 「たわいもなく」の意か？

二十八日 雨

またく雨にていかがとあんじいたりしに、午後はいよいよ出立となりたれば、天気もよくなり、いさぎよくいでたちたり。五時ころ東京なる家に着したり。めでしく。

十五日 大雨

此日は午前大雨なりしに三時ころより雨晴、今、すま、あい、みほ、とき\* 皆写真にゆく。

\*すま、あい、みほ、とき 鍋島家の職員。

十六日 少し雨

朝少しあめふる。午後よりはれる。運どうに出る。

十七日 天気

今日は父上様、沼津\*へ御機嫌うかがひに御出になるつもりにて、七時五十分との事なりしが、此車は人のせぬとの事故、しかたなく八時の車にかま倉\*へ御出になる。

\*沼津 沼津御用邸と思われるが、当時、明治天皇と昭憲皇太后は京都に滞在中であり、嘉仁親王（のち大正天皇）は葉山御用邸に滞在中であった。

\*かま倉 前田利嗣侯爵の別荘があった。別荘は一度焼失したが、のちに利嗣を継いだ利為が洋風に全面改築し、現在は鎌倉文学館となっている。なお鍋島直大の長女で伊都子の姉である朗子は利嗣夫人で、鍋島家と前田家は姻戚であった。

十八日 天気 六十九度

今日は又父上様御帰京遊ばさる。後、十二時四十八分の車にて母上様、伊都子、尚子皆平塚へ松露\*をとりに行。多くとれ、家にかへりざるにみ入ればおほかた三合のよ【余】ありたり。

\*松露（しょうろ） 担子菌類の食用きのこ。春と秋に松林中に生じる。通常は地中に埋もれているが、なかば地上にでていることもある。球状で傘茎の区別はない。吸物の実などにした。昭憲皇太后などもしばしば沼津御用邸周辺の松林で松

露とりに興じたことが知られる。

十九日 又雨と雪

今日、父上様大磯へ御出になる。四時七分に御着になる。

二十日 又雨

此日は外出なし、家にこもる。

二十一日 晴

風ひどく又外出なし。

二十二日 天気

今日は前田様\*十一時二十一分にて御着になるにて、亭【停】車場まで御出迎ひに行。それより家に行、いろく御みやげいただき、方ぼう御らん遊ばしおひるめし上り、午後より海岸へ行、うらの松ばらにをれば、慈貞院様御出になる。それよりかへり御やつをめし上り、そろくして前田様御かへりになるにて、又かけだしてステーションまで御見送りに行、御なごりおしく存候。

\*前田様 前田利嗣侯爵。利嗣は明治七年に加賀前田家を継ぎ、明治十五年に夫人の宣と離別し、その後、鍋島直大長女の朗子と再婚した。

\*慈貞院様 松平慈貞院（健子・貢姫）。天保十年（一八三九）、十代鍋島直正の長女として誕生。直大の姉で、伊都子の伯母にあたる。七歳の時、直正の正室盛姫により江戸へ呼び寄せられ養育された。安政二年（一八五五）、川越藩主松平直侯と結婚したが、六年後に直侯は病没。慶応四年（一八六八）、貢姫は江戸を発ち武雄での転地療養の後、佐賀城で直正の継室筆姫らと過ごした。明治四年（一八七一）直正の

の所へはいると御ちそふ、やきいもなり。皆たべて雨晴ければいそいへにかへり、鵜飼も五時の汽車にて御かへりになる。

\*いそ いそいで

六日 天気

午後一時ころより海岸へ出、亭【停】車場の方へ行。山へのぼり、此山は商人のとちなりとて今、家たちかけなり。それより野道を行、つくしなどを多くとりかへる。

七日 天気

此日は午後より海岸に出、禱龍かんの方まで行。三時まで居、家にかへる。

八日 くもり

朝少しくもりたれど、此日御父上様御墓参の為一寸御帰京になる。午後運動出、かへり見れば歌子様御いとまごひにお出になる。明日よりかへるとの事、それより御手習ひしていろくくの事し、夜七時ころ禱龍かんへ御かへりになる。

九日 雨 五十一度

朝おきみれば雨なり。此日歌子様御帰故、運動かたく御見送に行つもりなるに、雨終日降いて外出出来ず、とうくくこもり也。

十日 天気 暖 七十二度

午後運動かたく町の写真や\*に行、尚子\*と一所にうつす。此日出がけに田中永昌乗り、父上様道より御かへりになる。それより亭【停】車場へ行、

永昌かへるを見送、かへればめづらしく山木の花来る。

\*写真や 遠藤写真館か。大磯町の南本町にあった。

\*尚子(ひさこ) 鍋島直大六女。伊都子の妹。明治二十七年生まれで、のち旧大和郡山藩主家で伯爵となつた柳沢保申(やすのぶ)の長男である保承(やすつぐ)と結婚。

\*田中永昌 天保十四年(一八四三)生まれ。佐賀県士族。鍋島直大侯爵家扶。石川島造船所監査役。

十一日 【記載なく空欄】

十二日 くもり

午後少し運だうに出、木細工屋に行、其内(すま\*)は写真うつしにゆく。

\*すま 鍋島家の職員。

十三日 天気

天気なれど風つよく、一寸父上様と海岸へ出る。母上様は禱龍かんへ御出になる。

十四日 天気 三十二度

午後一時すぎに松平様\* 昭子様\* 千代子様と昭子様の御子様と御出になる。

\*松平様 旧讃岐高松藩主家の松平頼聡(よりとし)伯爵と思われるが不明。なお、

千代子は頼聡夫人。

\*昭子様 字は時子とも読める。昭子は松平頼聡八男の頼寿(よりなが)の妻であるが、明治十六年生まれで当時は十四歳であり、昭子かどうか疑問は残る。

たり。見ればあまたの魚とれて、中にかにとたことあり。それをもらひつゝかへりたり。午後は十二時過に出かけ、山ての方を三時過まであるき、よく運動をしてかへる。

二十五日 天気よし 風南なり

起きていろくゝの事し、午後山へ行。

二十六日 天気よし

なにもかくべき事なければやめ。

二十七日 天気大によし

此日は又御両親様東京へ御帰りゆゑ、亭【停】車場まで御見送りに行。十二時四十九分大磯発にて御出立になる。かへりに禱龍かんの方へ行、歌子様御宅に御菓子など御だしになる。それより家にかへる。

二十八日 天気

午後一時頃より海岸へ行、皆々打すわり、横になつたり何かしていたりしに、いつ\*の後よりしほ来り、にぐる間もなくひざから下はしほだらけになり、いそぎ家にかへる。あとの人々は足位なもので、さほど多くはあらざりき。それより又三時頃より田の方へゆき、少しつみ草したり。少し寒し。

\*いつ 伊都子のこと。

三月一日 天気

此日はかみをそろへ、午後三時よりつみ草に行。たくさんとりきたり。

二日 天気

風ありて寒し。午後より海岸へ行、小磯の方、橋本氏\*の別荘の所までゆき、町の方へ出、いそぎ家にかへる。

\*橋本氏 橋本綱常軍医総監。

三日 天気

今日御両親様、東京より御帰りになる。東京を七時に出るのにて、此地、九時四十八分に御着になる。ステーションまで御むかへに行、御道同【同道】して家にかへり見れば歌子様御出になり、桜もちなど下さる。師の君\*も三時まへに私の手習ひして直に御かへりになる。

\*師の君 中島歌子のこと。

四日 天気

此日は歌子君、お菓子をこしらへ上るとの事ゆへ、あちこち運動し、野道よりすずしと浅野\*の別邸の方へ行、三嶋\*の所よりお茶などもらひ、また海岸の方へ出、家にかへる。凡三時間あるく。かへりて見れば歌子【様】はいま来た所にて、いなりまんぢゆう\*をこしらへ下さる。

\*浅野 浅野総一郎。浅野財閥創設者、セメント王と称された。

\*三嶋 三嶋弥太郎。三嶋通庸子爵の長男。当時は貴族院議員。のち横浜正金銀行頭取、日本銀行総裁などをつとめる。

\*いなりまんぢゆう あんドーナツのこと。

五日 朝 天気

此日は昼飯たべおわりけるととき、鶺鴒婦人【夫人】まいる。それより方ぼう見、海岸へいづ。少しして雨ふりいだす。いそぎ禱龍か【ん】へ行、歌子様

十七日

朝おき見ればめづらしく雪降て、あたりの山々ゑもいわれぬ美しきなりけり。午後一時ころより海岸をあるき禱龍かん\*【へ】まいり歌子先生の所を御見舞し、となりの松平千代子様のところにいろく御話申上、二時半過に家に帰へる。

\* 禱龍かん 禱龍館。大磯町の旅館。大磯停車場の南方、海岸側にあった。

\* 歌子 中島歌子。私塾「萩の塾」の創設者で、樋口一葉の師として知られる。夫が幕末の天狗党の乱に加担した罪で自害するなど水戸の国学者とのつながりがあった。また維新後に御歌掛から御歌所長となる高崎正風の知遇を受けるなどして、明治期の上流階級の子女などに和歌や書を指南するようになり、鍋島家もその指導を受けていた。弘化元年十二月十四日（一八四四年一月二十一日）生まれで、当時はかぞえ五十三歳であった。のち明治三十六年に亡くなる。

\* 松平千代子 彦根藩主で大老であった井伊直弼の次女の千代子か？高松藩主松平頼聡の正室であったが幕末の動乱期にあって一度離婚し、再び復縁した。はじめ弥千代、復縁して於千代としたがのちに千代子と称する。弘化三年一月十六日（一八四六年二月十一日）生まれで、当時はかぞえ五十二歳。昭和二年に亡くなった。

十八日

此日は御両親様一寸東京へ御帰りになる。其故は父上様御代拝の為なり。十時二十一分大磯発にて御出になる。われ御見送りにステーションまで行しに風ひどくして目も明られぬほどなりき。それよりかへりに町の方へ行、芝居の前を通り海岸へ出、家にかへる。午後はこもりきり也。

十九日 大雪

又々おき見れば大雪也。此日はまた御両親様大磯へ御帰へりになるゆゑ、

朝はかみをそろゑて御まち申上る。午後四時七分に御着になる。

廿日 同

なほく雪つもりし故おきて少したち庭に出、雪の尺を見んとておりしに、くじら七寸まどあり。午後は雪だるまをこしらへなどしてあそぶ。

\* くじら七寸 くじら尺一寸は約三・八センチ。七寸は約二六・五センチ。

廿一日 天気

此日は別にめづらしき事なし。只海岸へいで石などひろふ也。

廿二日 少し天気

此日は午後より運動にいで禱龍かんの岩の所まで行しに、歌子先生御よび被成、又先生の所に上り、いろくなものいただき、かへり道にてお客とて御父様おさきに御かへりになる。われくも御あとよりかへりてみれば、御客は学習院の先生森義則といふ人なり。又もひとり田中一郎なり。それより掛時計をなほしたり、海岸へ行たりして五時四十九分にてかへりたり。

廿三日 くもり

此日は朝おきれば空くもりて雨もようなりし故、そとには出られずとて、かみなどそろへ湯へもはいり居れば、少しばらくと雨降いだしたり。午後はやみし故いづれば又降いだす。一日こもりきりなり。

二十四日 天気大によし

午前九時半ごろ一寸海岸へ行て見れば、西の方に舟あがりければ見にゆき



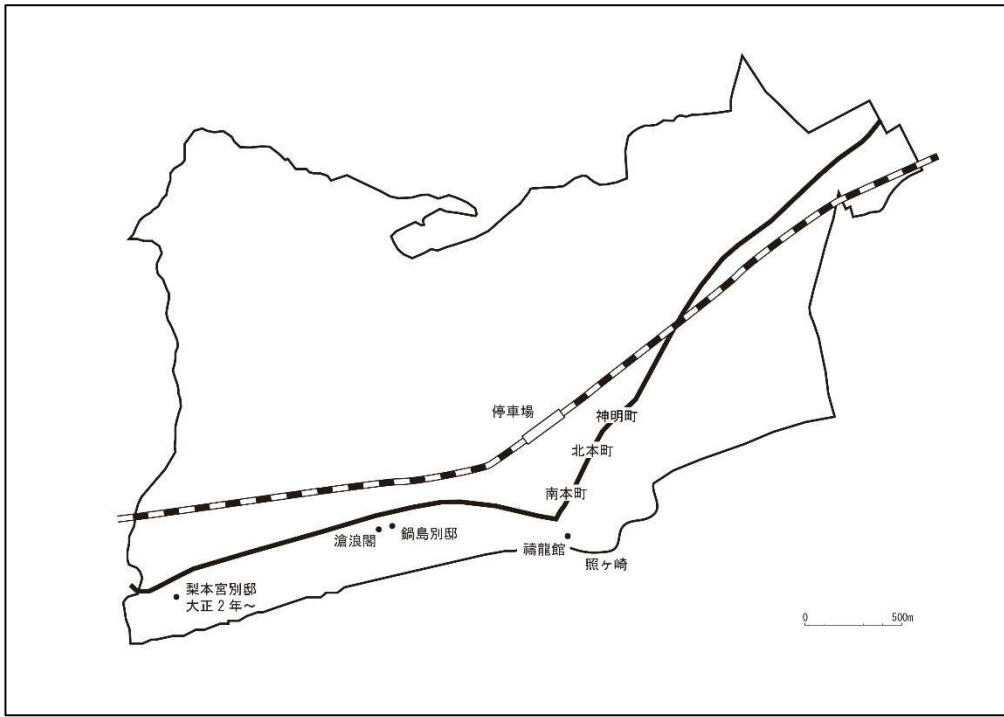


図 明治30年ごろの大磯町

明治卅年二月十四日より三月二十八日迄 大磯日記

十四日(日) 六十五度

午後十二時半の汽車にて東京を出立し、同二時四十八分に大磯駅に着き、それより人力きにて御別荘きしてはしり、七分間にて着す。それよりいろいろの人御あいさつに出、いろいろして夜に入。

\*人力 大磯駅から鍋島別荘まで人力車で七分だった。

\*御別荘 鍋島侯爵家の別荘。敷地は西小磯稻荷松の畑や山林で四七二三坪あったという。この明治三十年には皇太子嘉仁(のち大正天皇)が来邸し「迎鶴楼」と名づけられた(鈴木昇『大磯の今昔(八)』)。

十五日(月)

天気大によし、朝起いで直に海岸に行。此日は常宮周宮き両宮は三嶋きへ御出にて、東京を七時三十分の汽車にて御出ゆゑ、大磯九時半ころ御とまりになり、御両親様きズテーションまで御見送りになる。あとはつまらぬこと故かきげず。

\*常宮周宮 明治天皇皇女の昌子内親王と房子内親王。それぞれ明治二十一年生まれ、明治二十三年生まれで、明治十五年生まれの伊都子より六歳下、八歳下。のち、それぞれ竹田宮恒久王妃、北白川宮成久王妃となる。

\*三嶋 三嶋には三嶋大社があった。当時は東海道線に三嶋駅はなく、多くは沼津経由だった。

\*御両親様 鍋島直大と栄子。

十六日

別に此日はかく事もなければやめ。

【資料紹介】鍋島伊都子『大磯日記』（明治三十年）

小田部 雄次（静岡福祉大学名誉教授）

『大磯日記』は旧佐賀鍋島藩主であった鍋島直大侯爵の次女の伊都子の鍋島家の大磯別荘滞在中の日記である。明治三十年（一八九七）二月十四日から三月二十八日までのおよそ一カ月半ほどの滞在であった。このころ鍋島家は、春は大磯、夏は日光に滞在していたようで、伊都子には同年七月二十八日から八月二十九日までと、翌年七月二十九日から八月二十九日までの『日光日記』もある。

また伊都子には、明治三十二年一月一日から昭和五十一年（一九七六）六月三日まで、一部空白はあるが、七十七年六カ月におよびほぼ毎日綴った日記があり、これらの一部はすでに拙著『梨本宮伊都子妃日記』（小学館一九九一年）で紹介した。

これらの日記を記した伊都子は、明治三十三年二月二十八日に皇族の梨本宮守正王と結婚して、梨本宮妃となつて、明治、大正、昭和の三代の天皇の時代を天皇皇后や各皇族はじめ華族らと親密な交流を築いてきた。その断片も日記の随所にみられ、かつての上層階級のライフスタイルの一端を知ることができる。

伊都子は昭和二十二年十月二十四日に皇籍離脱するまで皇族妃の地位にあり、その後、一般市民となり、一代で華族令嬢、皇族妃、一般市民という稀有の生涯を送った女性であった。こうした変転の人生を送った伊都子の日記は、日本の近現代史の歩みを見つめなおす上でも重要なものといえる。

なお伊都子は七十七年におよぶ日々の日記のほかにも、皇族妃として欧州王室を訪問した際の日記、関東大震災のときの日記のほか、戦時中の体

験をまとめた記録など、数多くの日記や手記を残した。なかでも『大磯日記』は日々の日記よりも早い時期の日記であり、現存する伊都子の日記ではもっとも若い時代のものといえる。

『大磯日記』の前年の明治二十九年十月十三日に満十五歳の伊都子は梨本宮守正王と婚約しており、鍋島伊都子として最後の独身時代を過ごしていたころの記録ともなっている。

大磯には明治十八年に軍医総監の松本順が国民の健康管理のために照ヶ崎に開設した日本最初の海水浴場があった。明治二十年には大磯に東海道線の停車場ができ、禰龍館や招仙閣という旅館も建ち、海水浴客も増えた。

大磯には伊藤博文の滄浪閣はじめ政財界の実力者たちの別邸も多く建ち、鍋島家も明治二十九年ごろに別荘を建てたと伝えられる。伊都子の『大磯日記』は鍋島別邸ができた翌年の春のことであり、使いはじめたばかりのころといえる。また春なので海水浴ではなく、温暖な春の海岸で保養するのが目的だったようだ。

『大磯日記』には、両親である鍋島直大、栄子のほか、当時四歳の妹の尚子や鍋島家の職員たちの動きが記される。両親はしばしば宮中の用務などで東京に戻ったり、姻戚である鎌倉の前田家別荘に向いたりした。伊都子も平塚まで松露とりにでかけるなど、大磯を拠点に東海道線沿線の地にでかけていた様子がうかがえる。

ちなみに、伊都子は気温を華氏で書いている。日記には華氏で「六十五度」、「五十一度」、「三十二度」などとあり、摂氏ではそれぞれ「十八・三度」、「十・六度」、「零度」となる。

なお、日記原文には句読点や濁点などがない箇所もあるが、読みやすさを重視して、適宜、句読点や濁点を付した。誤記や記載漏れなどは【】で修正した。日記中の人物などについてはわかる範囲で簡単な注を付した。

# 年 報

令和4年度

◇ 令和5年7月21日発行

◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660